

「江津市の中学生の多様な学力に関する考察」

報告者: 安達麻衣・浦瀧翔太・加藤駿介・瀬尾陽未・時耕陽菜・豊田彩衣里・中埜舞優・古谷莉深・正木倫音

(島根県立大学地域政策学部 専門演習Ⅳ:角ゼミ)

指導教員: 角能 (島根県立大学地域政策学部地域政策学科地域公共コース准教授)

mail: y-kado@u-shimane.ac.jp (質問等はこちらまで)

1: 問い

- ・江津市の中学生の保護者は、中学生の多様な学力について、どのような点が得意で、どのような点が苦手と考えているのか？
- ・多様な学力を形成するために、子どもにどのような体験をさせているのか？
- ・家庭でどのような教育を行っているのか？
- ・一方で、将来子どもたちにどのような職場で働いてほしいと考えているのか？
- ・誰からどのような子育てに対する支援を受けているのか？

⇒

- ・以上の背景によって、中学生の子育てのことでどの程度ストレスを抱えているのか？

1: はじめに (問題関心)

1: 定型的な課題をこなす「近代型能力」だけでなく、他者との関係性やオリジナリティなど非定型的、非認知的な能力である「ポスト近代型能力」も要請される時代 (本田2008)。

⇒

2: 子育ての見通しが立ちづらく、育児不安が大きな時代 (本田2008)。

⇔

3: 学力の多様性、そこでの競争に加えて、基礎学力の保障も要請される時代 (山田2016)。

⇒

4: 子どもを導く子育て、子どもに任せる子育ての双方が、保護者に求められている時代 (額賀・藤田2022)。

1:はじめに(問題関心)

5:「子どもに任せる子育て」という考え方の多義性、分節化の必要性。

⇒「あえて助け舟を出さず創意工夫を促す」、「子どもがやりたいことがあるときに介入しない」、「子どもがやりたいことがあるときに支援する」など多義的。

6:「他者を助ける」、「創造する」は二項対立ではない可能性もふまえた検証の必要性。

⇒「創造する」ために、「他者に働きかける」というコミュニケーション能力も。

(本田2008:99の保護者の「社会人になった際の、いろいろなところに相談しながら解決していく場面」という語りはこのことを示唆)

7:保護者の子育てについての志向や方針だけではなく、保護者の子育てに伴い発生する感情、労働・負担にも目を向ける必要性。

→怒りの感情や子どもから距離を置いた対応の可能性にも目を向ける必要性。

1:はじめに(問題関心)

- ・子どもの学力や生活体験は、子どもの将来の職業に対する希望と結びつく可能性あり。
- ・職業に対する希望の多次元性。高収入や安定などの「地位達成」とやりたいこと、得意を活かすという「自己実現」の双方の側面あり(多喜2015)。

→

8:さまざまな学力やそのための手段としての生活体験、それに伴う負担も検証する必要あり。

そもそもどのような職場環境で働いてほしいと考え、それがさまざまな学力の現状とどのような関係にあるのかも明らかにする必要性。

2:報告に使用する調査

- ・江津市内の中学校に在籍する中学生の保護者に対するオンラインアンケート調査のデータ。

- ・2025年10月18日～11月3日に実施。

有効回答数179件。

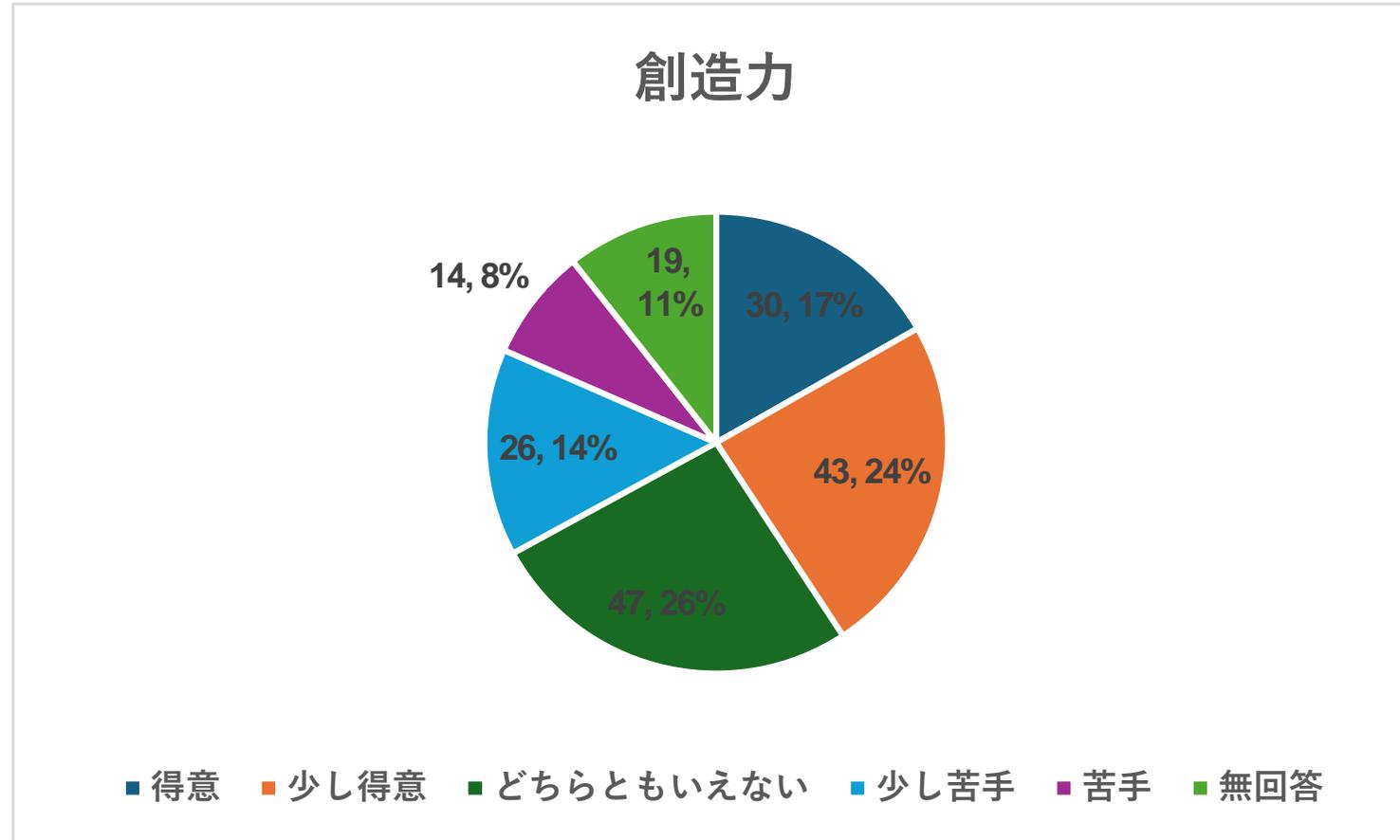
*本報告に使用するアンケート調査の実施に際しては、島根県立大学浜田キャンパスの倫理審査を受けた。

またアンケート調査の質問項目の作成およびデータ分析は報告者および指導教員が行い、オンラインアンケート調査の実施やデータ入力、株式会社マイビジネスサービスに委託した

3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・創造力について、得意な中学生は、半数に満たない。

ex 中学生の子どもの創造力について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ17%、24%。



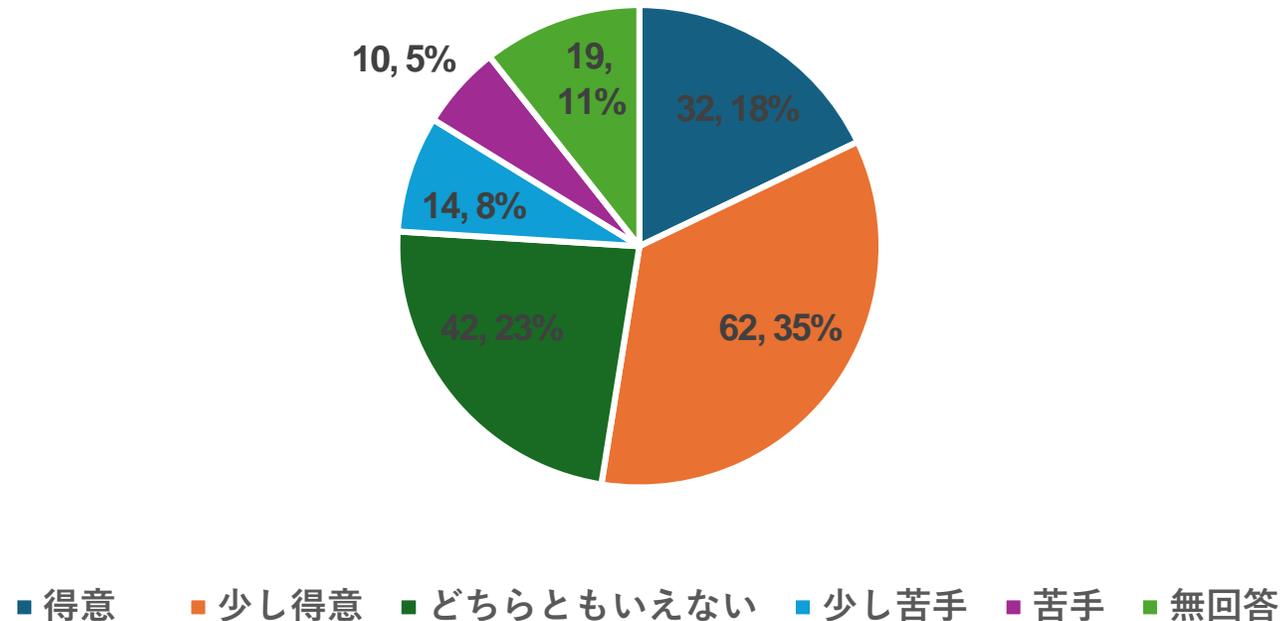
(以下の質問項目は、尾嶋2001:224、本田2008、多喜2015等を参照)

3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・中学生の子どもの人や出来事への想像力は、半数強が得意。

ex 中学生の子どもの人の気持ち・出来事を想像する力について、得意、少し得意と回答した保護者は、それぞれ18%、35%。

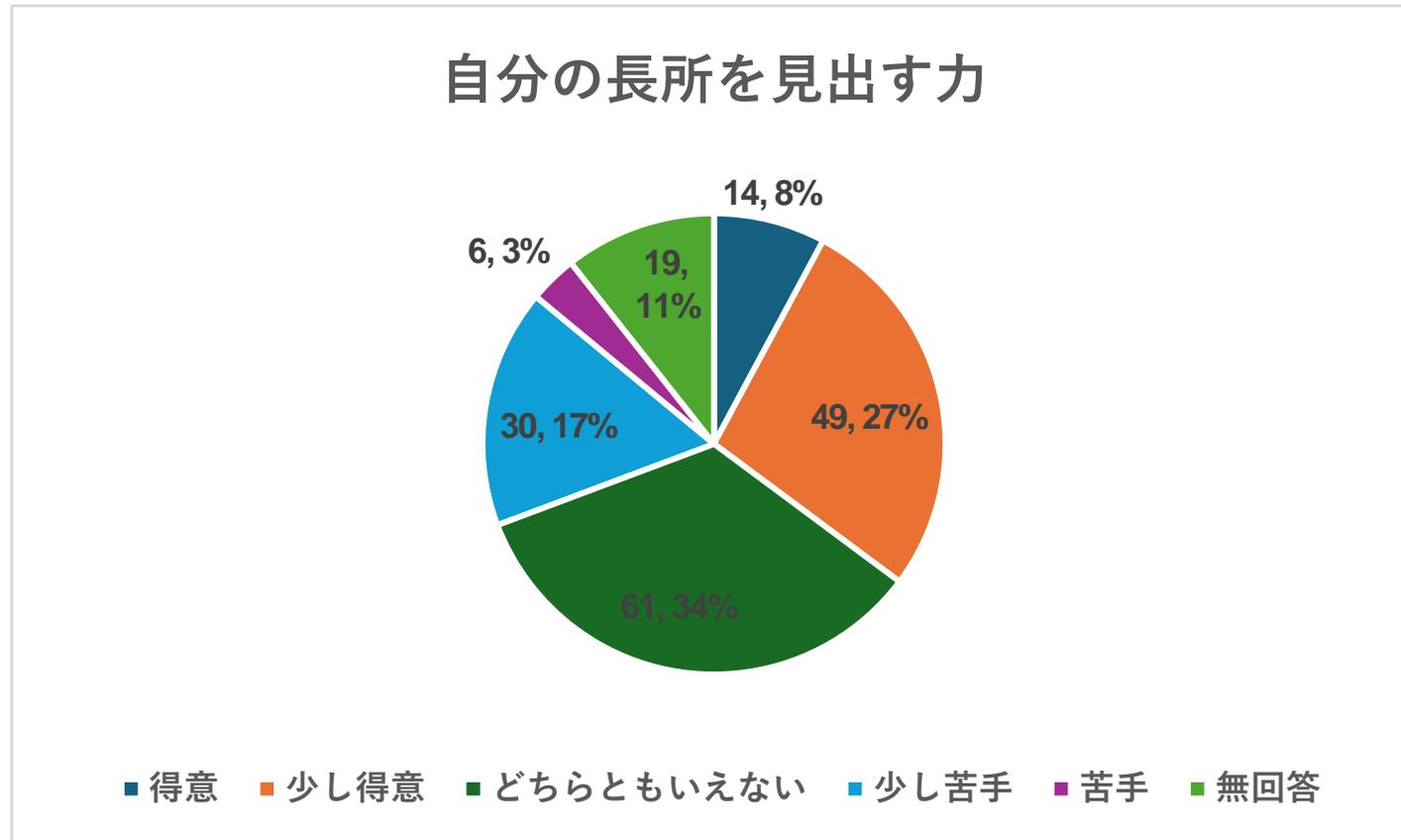
想像力（人の気持ち・出来事を想像する力）



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・自分の長所をわかっている中学生は4割未満。

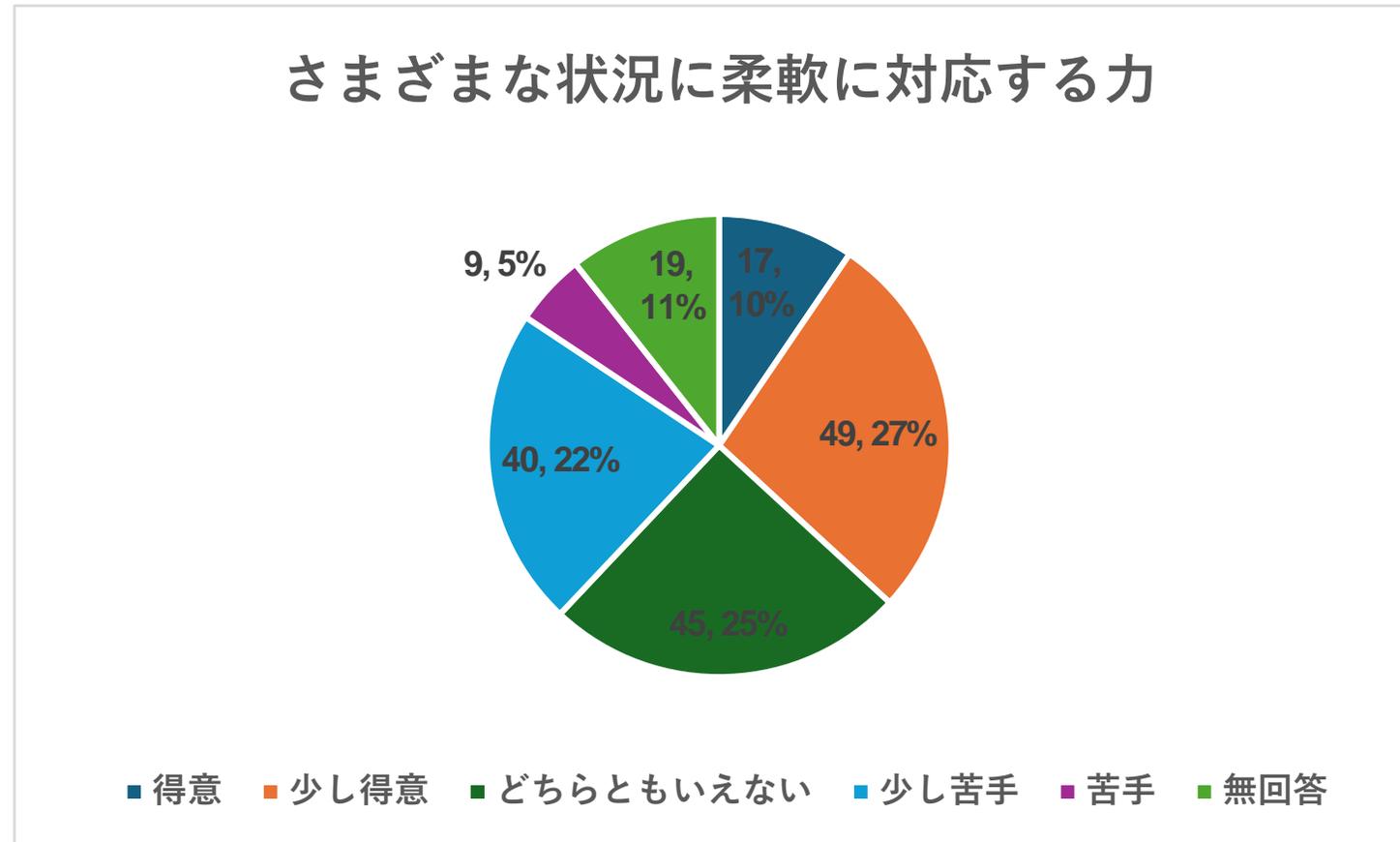
ex 中学生の子どもの自分の長所を見出す力について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ8%、27%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・状況対応の柔軟性については、得意な中学生は4割未満。

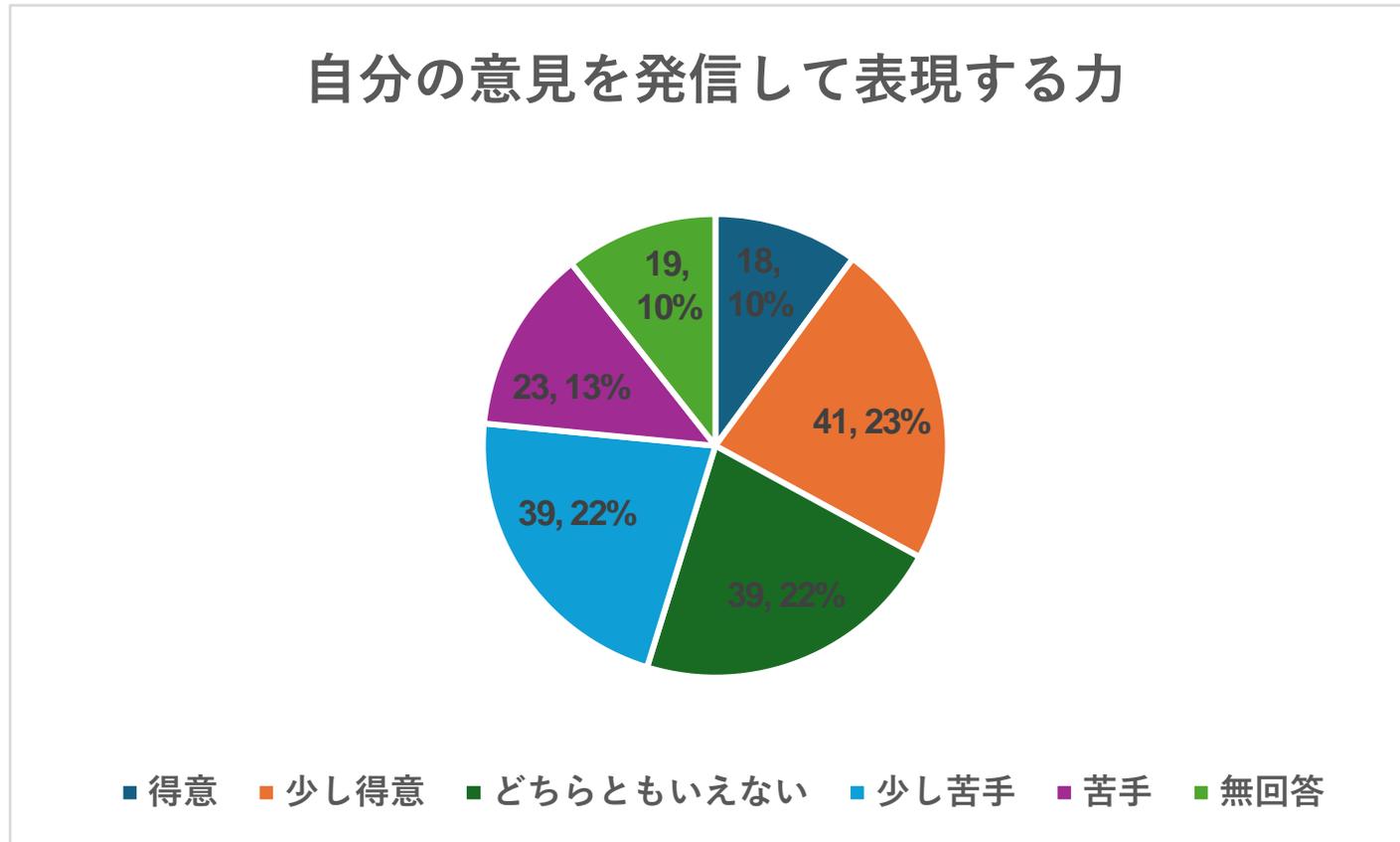
ex 中学生の子どもがさまざまな状況に柔軟に対応する力について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ10%、27%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・自分の意見を表現するのが得意な中学生は4割未満。

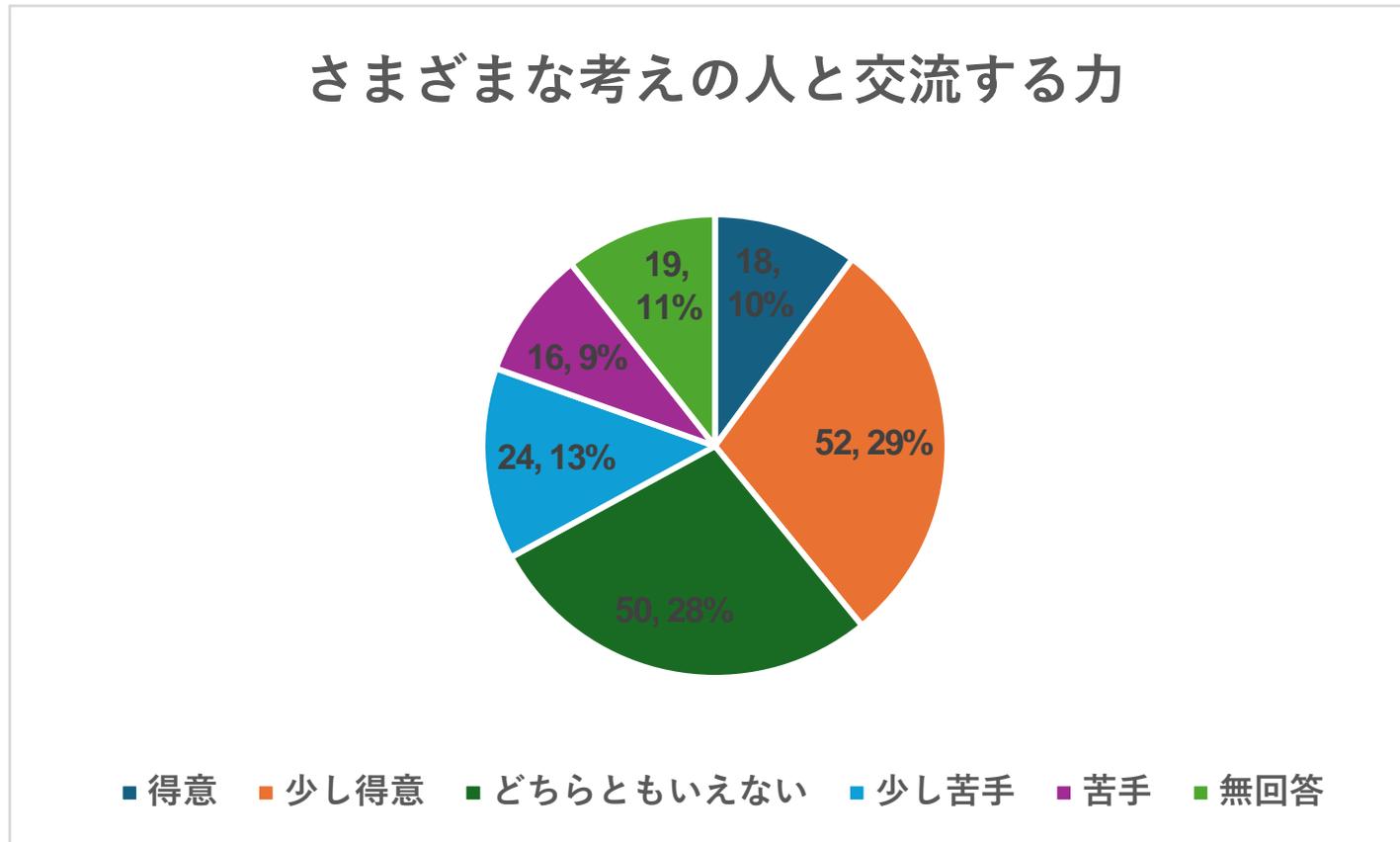
ex 中学生の子どもが自分の意見を発信して表現する力について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ10%、22%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・さまざまな考えの人と交流するのが得意な中学生は4割程度。

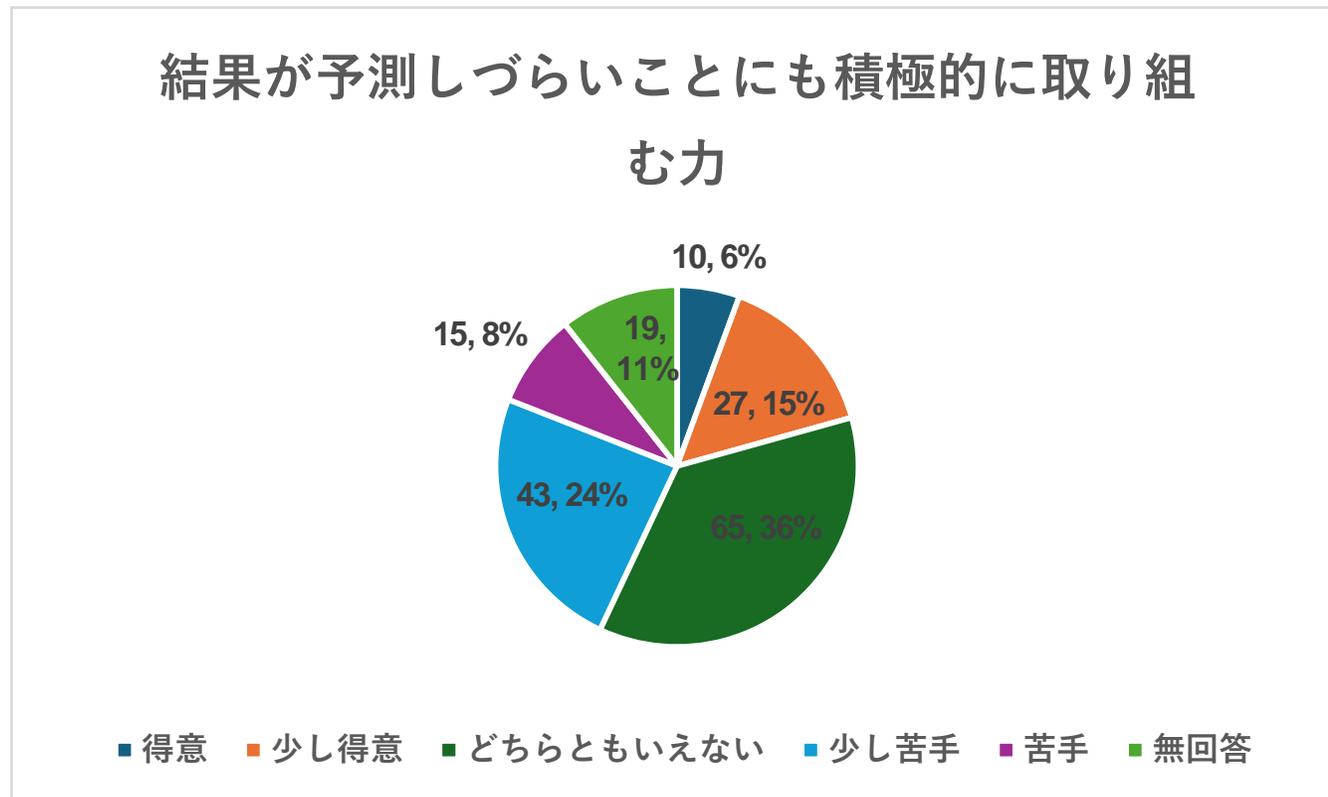
ex 中学生の子どものさまざまな考えの人と交流する力について、得意・少し得意と回答した保護者は、それぞれ10%、29%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・リスクを引き受ける積極性が得意な中学生は2割程度だけ。

ex 中学生の子どもの結果が予測しづらいことにも積極的に取り組む力について、得意、少し得意と回答した保護者はそれぞれ6%、15%。

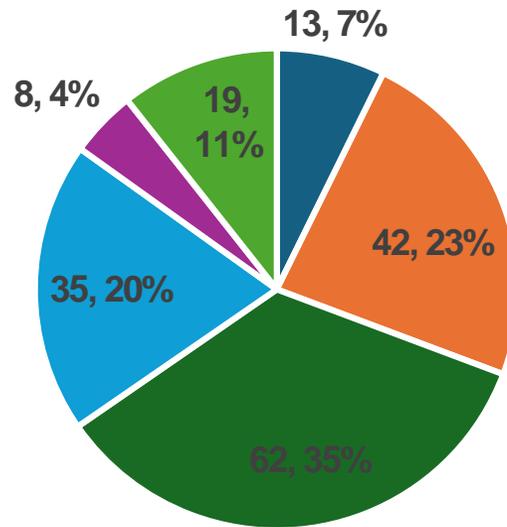


3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・他人の力を活用するのが得意な中学生は約3割だけ。

ex 中学生の子どもが他人に助けを求める力、お願いする力について、得意・少し得意と回答した保護者は、それぞれ7%、23%。

他人に助けを求める力、お願いする力

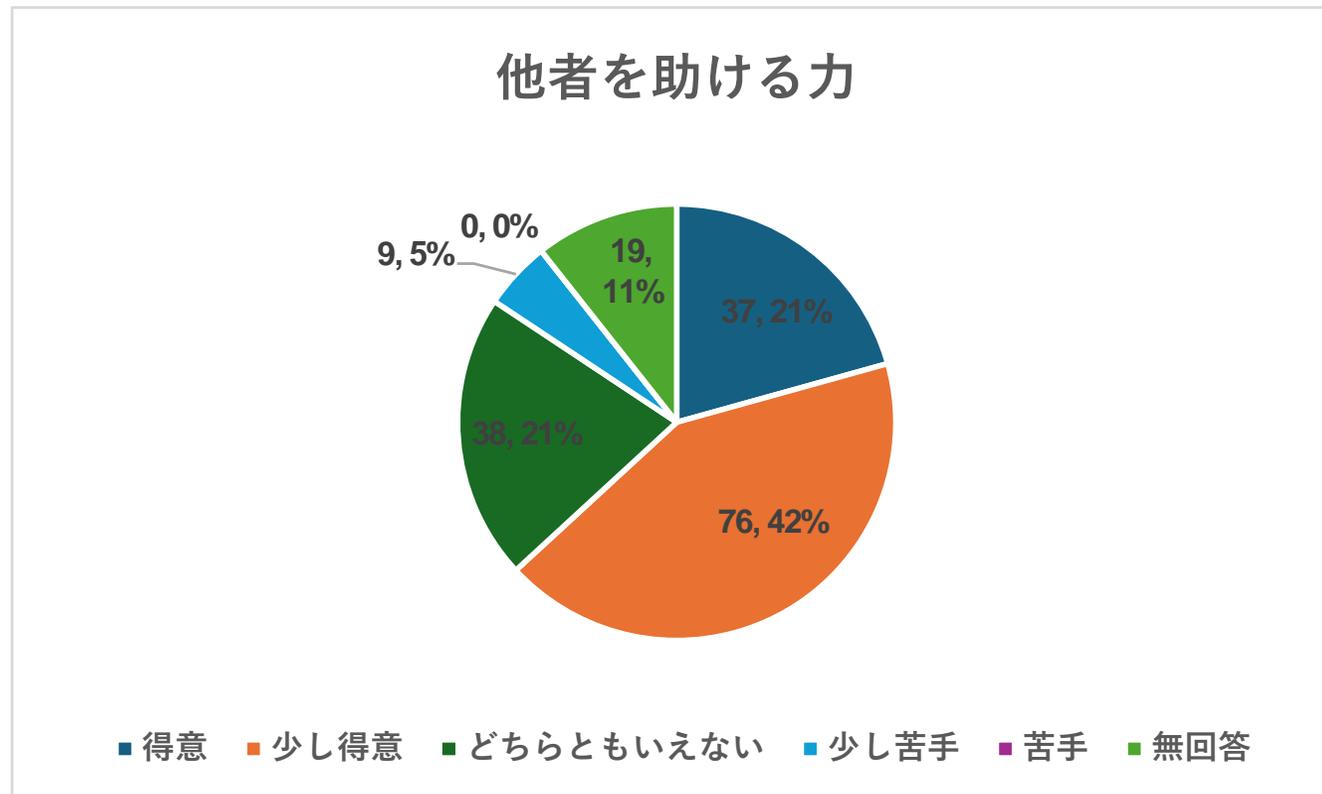


■ 得意 ■ 少し得意 ■ どちらともいえない ■ 少し苦手 ■ 苦手 ■ 無回答

3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・他者を助けることが得意な中学生は6割以上。

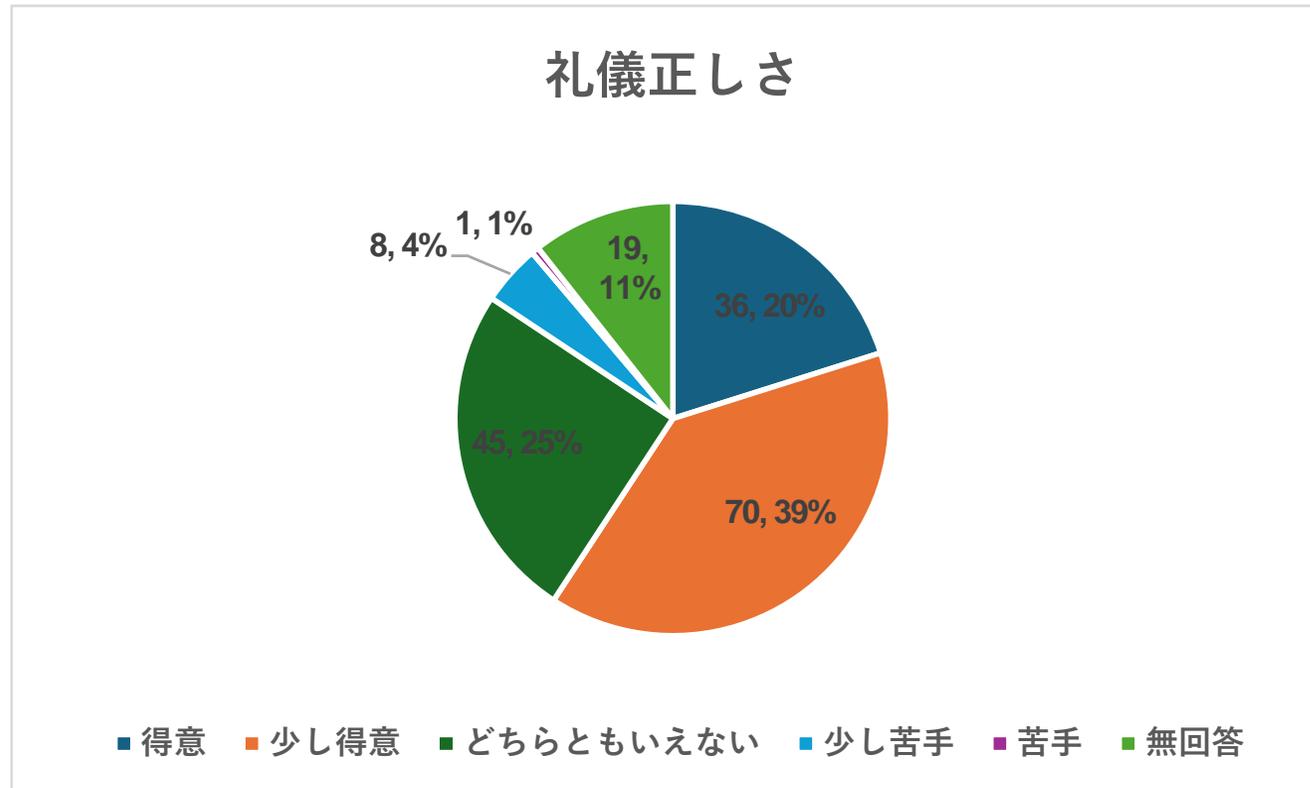
ex 中学生の子どもの他者を助ける力について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ21%、42%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・約6割の中学生が礼儀正しい。

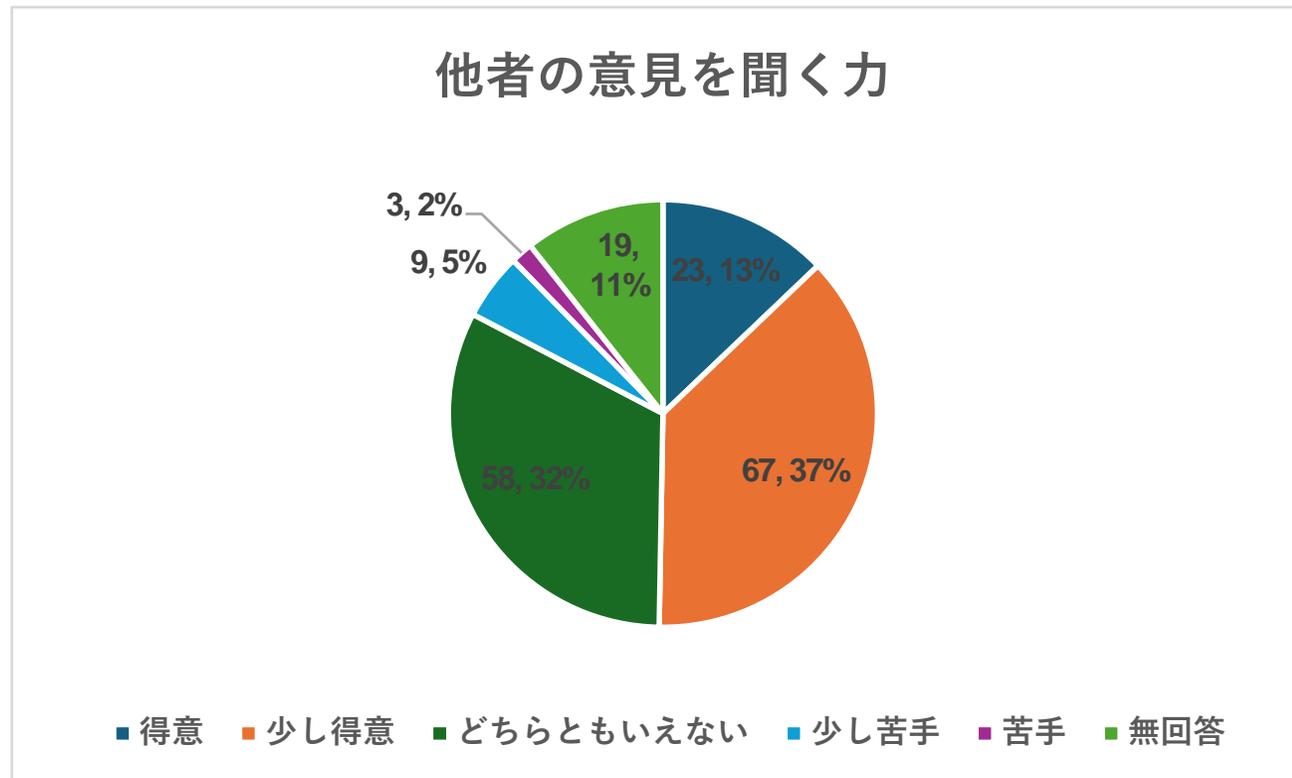
ex 中学生の子どもの礼儀正しさについて、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ20%、39%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・約半数の中学生が、他者の意見を聞くのが得意。

ex 中学生の子どもの他者の意見を聞く力について、得意・不得意と回答した保護者がそれぞれ13%、37%。

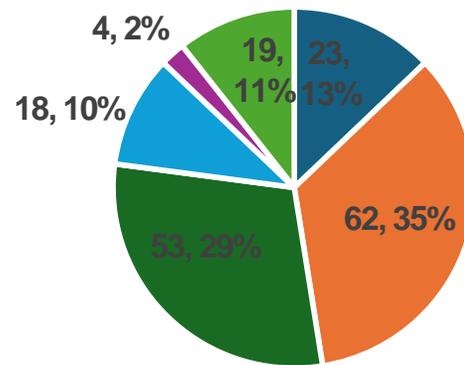


3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・相手に合わせた感情統制が得意な中学生は、半数弱。

ex 中学生の子どもの「場合によっては相手に合わせて自分の感情をコントロールする力」について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ13%、35%。

場合によっては相手に合わせて自分の感情を
コントロールする力

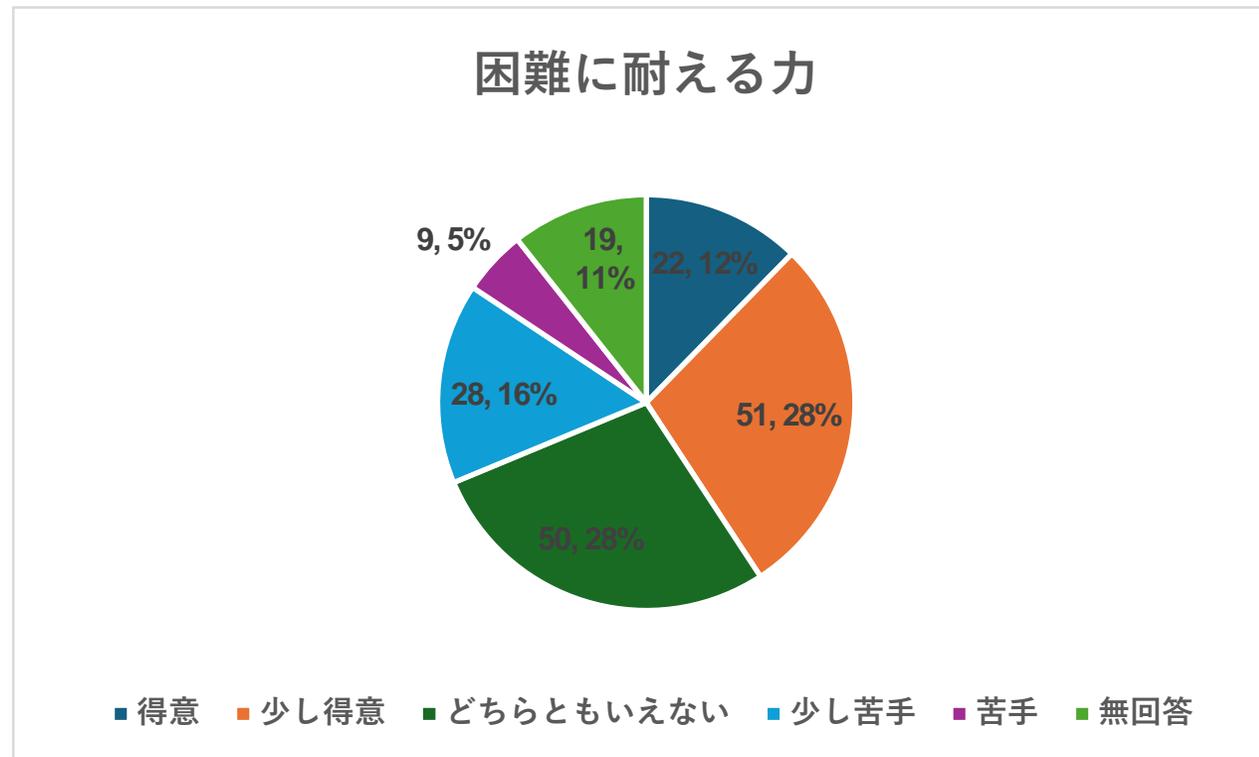


■ 得意 ■ 少し得意 ■ どちらともいえない ■ 少し苦手 ■ 苦手 ■ 無回答

3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・困難に耐えるのが得意な中学生は4割程度。

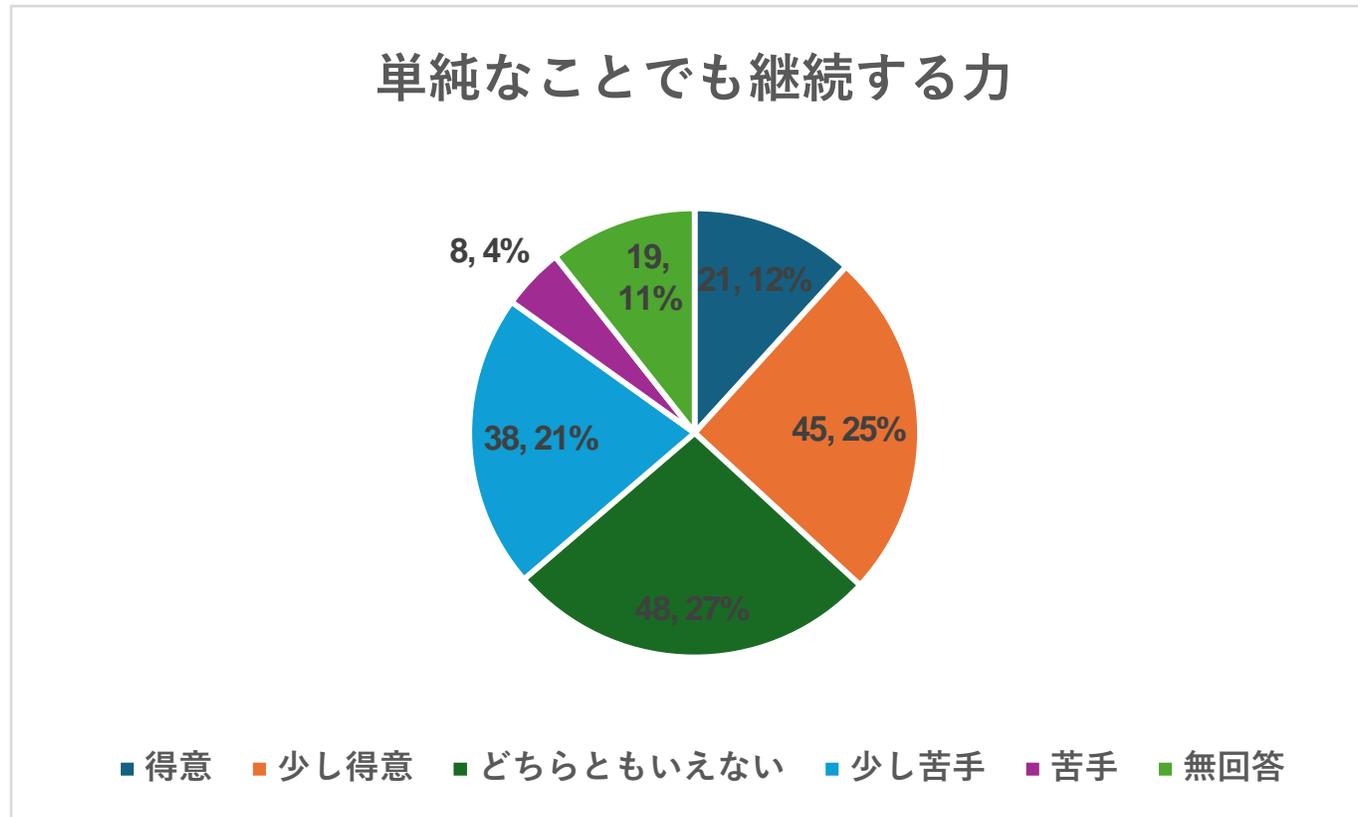
ex 中学生の子どもの困難に耐える力について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ12%、28%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・地道な継続力について、得意な中学生は4割未満。

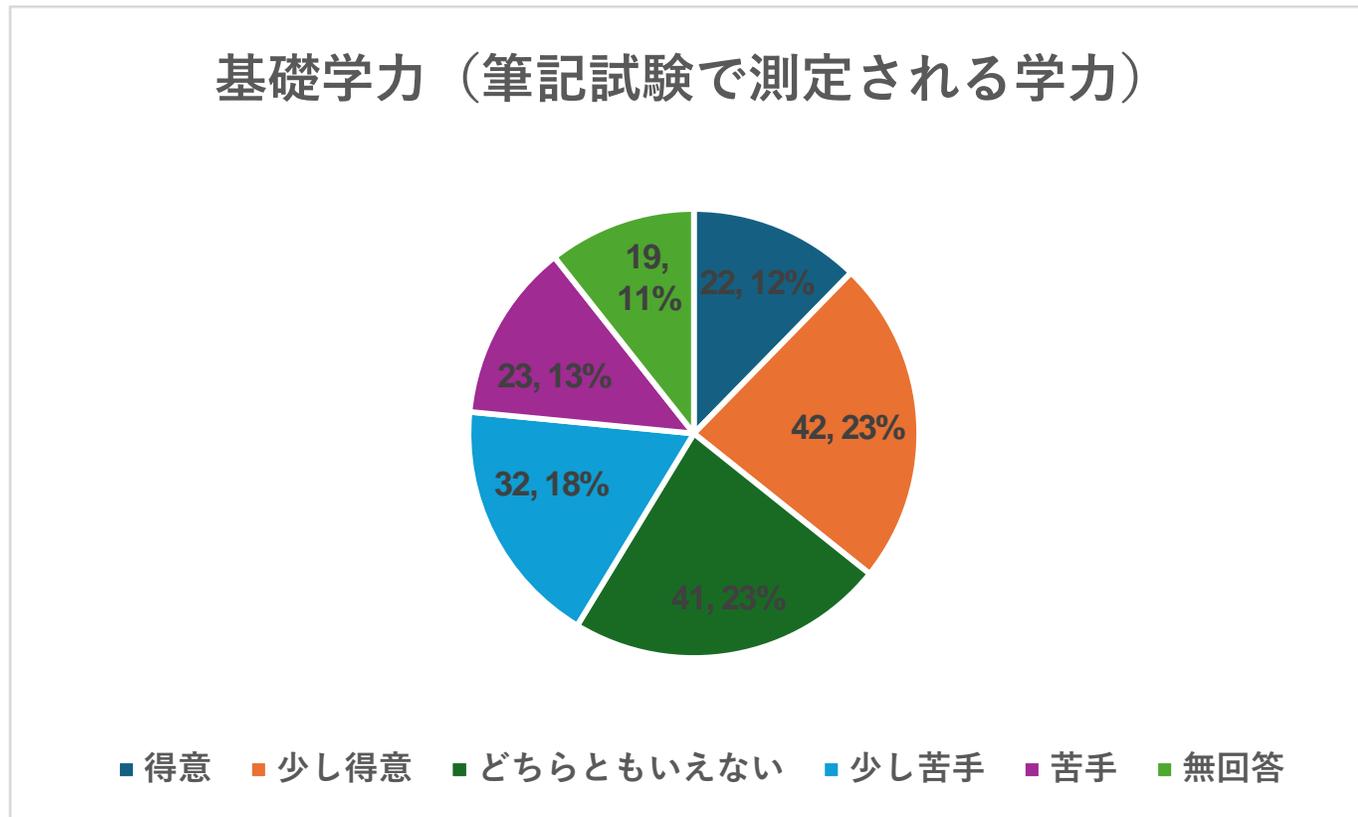
ex 「単純なことでも継続する力」について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ12%、25%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・ペーパーテストの学力が得意な中学生は4割未満。

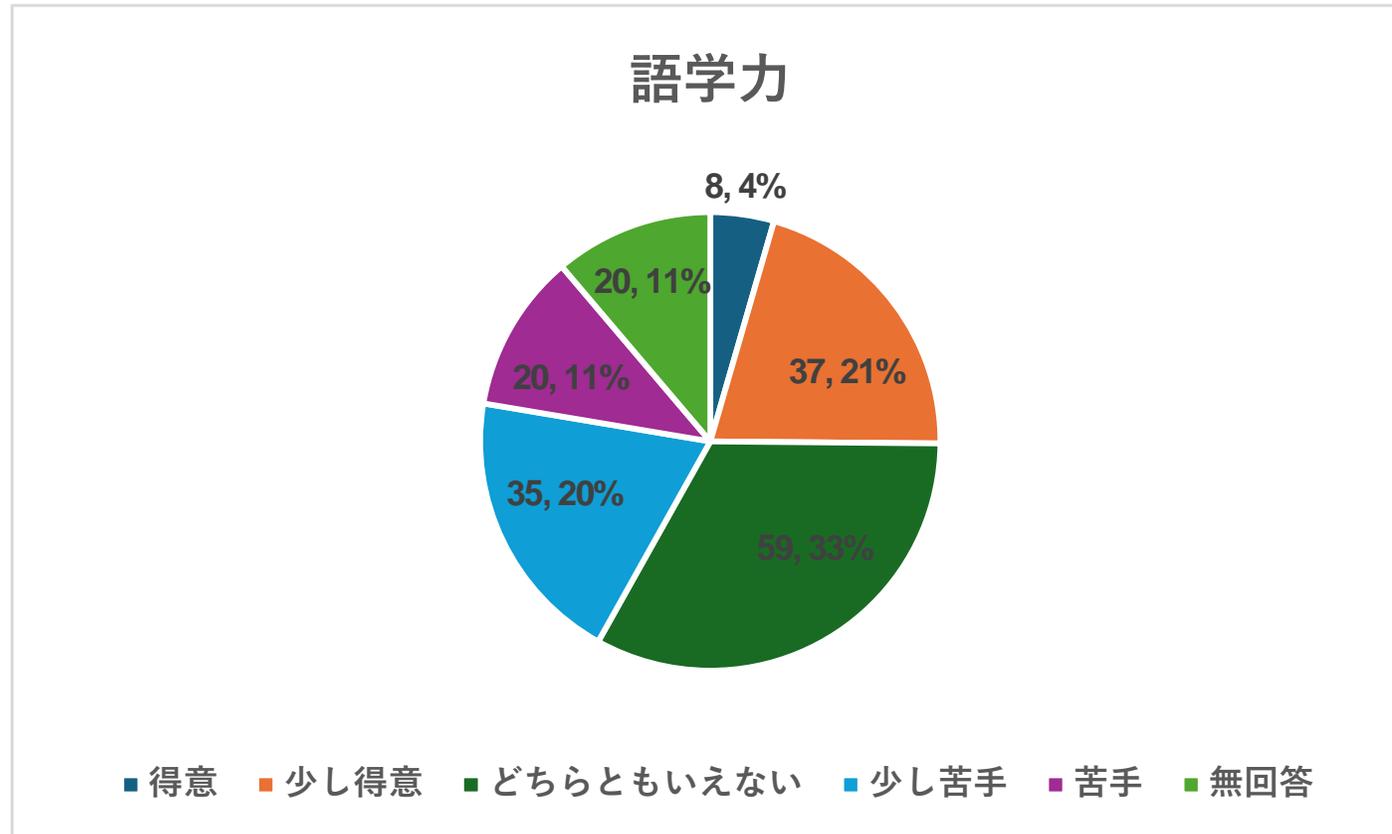
ex 中学生の子どもの「基礎学力（筆記試験で測定される学力）」について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ12%、23%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・語学が得意な中学生は25%程度。

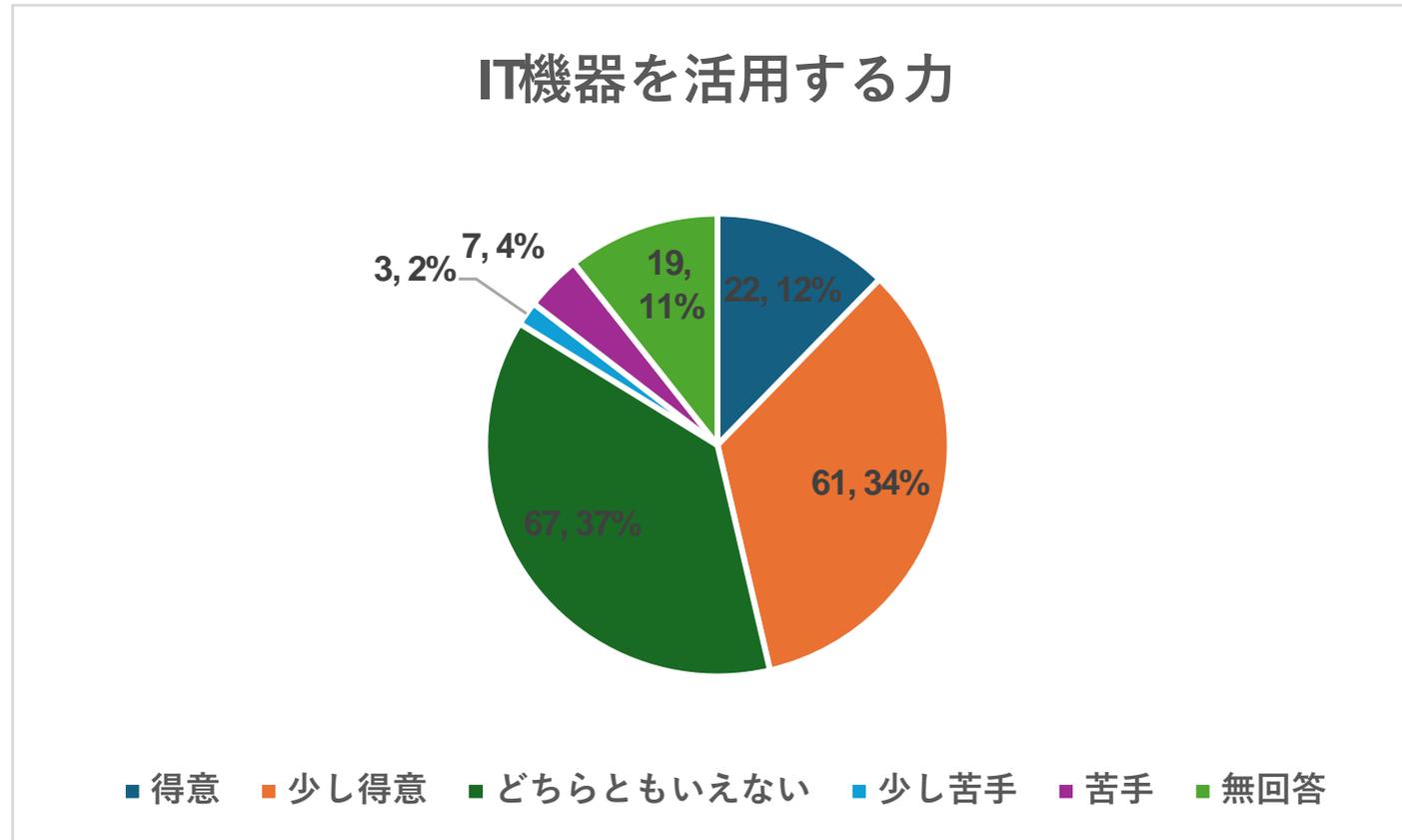
ex 中学生の子どもの語学力について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ4%、25%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・ITスキルが高めの中学生は半数程度。

ex 中学生の子どものIT機器を活用する力について、得意・少し得意と回答した保護者はそれぞれ12%、34%。



3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・世帯年収が少ない場合、子どもが他人に助けを求めることが苦手という回答割合が多め。

ex 年収300万円未満の世帯では、少し苦手33.3%、苦手20.0%。

*以下の世帯年収と多様な学力とのクロス集計は、 $p < 0.1$ のみ掲載

	得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
300万円未満	0	3	4	5	3	15
	0.0%	20.0%	26.7%	33.3%	20.0%	100.0%
300万円以上600万円未満	6	18	21	18	3	66
	9.1%	27.3%	31.8%	27.3%	4.5%	100.0%
600万円以上	7	20	36	12	2	77
	9.1%	26.0%	46.8%	15.6%	2.6%	100.0%
合計	13	41	61	35	8	158
	8.2%	25.9%	38.6%	22.2%	5.1%	100.0%

3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・世帯年収が少ない場合、他者の意見を聞くのが得意という回答割合が少なめ。

ex 年収300万円未満の世帯では、得意6.7%、少し得意20.0%。

	得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
300万円未満	1	3	9	0	2	15
	6.7%	20.0%	60.0%	0.0%	13.3%	100.0%
300万円以上600万円未満	13	26	20	6	1	66
	19.7%	39.4%	30.3%	9.1%	1.5%	100.0%
600万円以上	9	37	28	3	0	77
	11.7%	48.1%	36.4%	3.9%	0.0%	100.0%
合計	23	66	57	9	3	158
	14.6%	41.8%	36.1%	5.7%	1.9%	100.0%

3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

- ・世帯年収が多い場合、子どもの感情コントロールが得意という回答割合が多め。
ex 年収600万円以上の世帯では、得意15.6%、少し得意48.1%。

	得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
300万円未満	1	3	6	2	3	15
	6.7%	20.0%	40.0%	13.3%	20.0%	100.0%
300万円以上600万円未満	10	22	24	9	1	66
	15.2%	33.3%	36.4%	13.6%	1.5%	100.0%
600万円以上	12	37	21	7	0	77
	15.6%	48.1%	27.3%	9.1%	0.0%	100.0%
合計	23	62	51	18	4	158
	14.6%	39.2%	32.3%	11.4%	2.5%	100.0%

3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

・世帯年収が多い場合、基礎学力が得意という回答割合が多め。

ex 年収600万円以上の世帯では、得意15.6%、少し得意32.5%。

	得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
300万円未満	0	1	7	3	4	15
	0.0%	6.7%	46.7%	20.0%	26.7%	100.0%
300万円以上600万円未満	10	15	14	14	13	66
	15.2%	22.7%	21.2%	21.2%	19.7%	100.0%
600万円以上	12	25	20	15	5	77
	15.6%	32.5%	26.0%	19.5%	6.5%	100.0%
合計	22	41	41	32	22	158
	13.9%	25.9%	25.9%	20.3%	13.9%	100.0%

3:分析の結果(1) 江津市の中学生の多様な学力

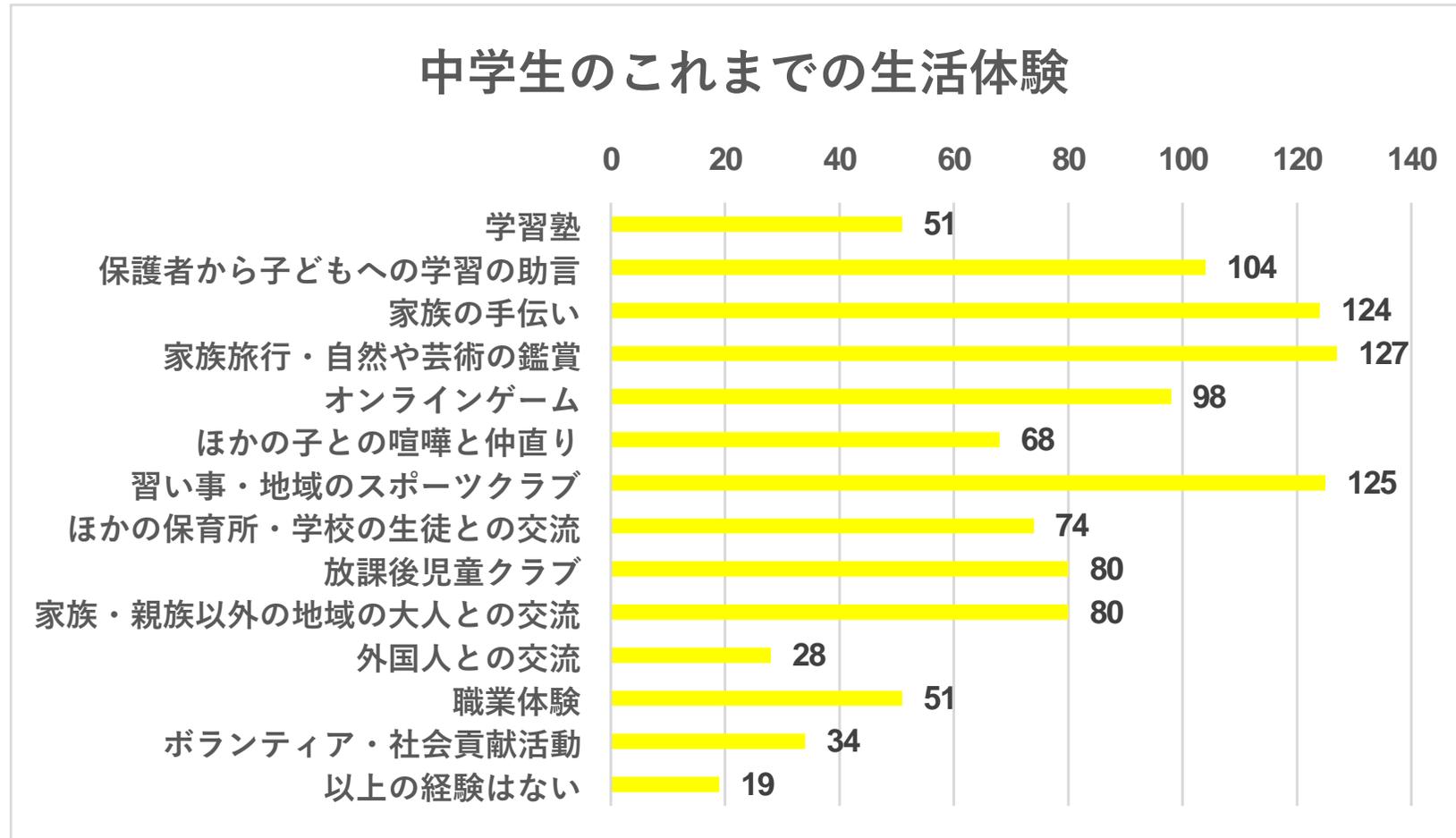
・世帯年収が少ない場合、困難に耐える力が得意という回答割合が少なめ。

ex 年収300万円以上の世帯では、苦手20.0%%、少し苦手26.7%。

	得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
300万円未満	2	2	4	4	3	15
	13.3%	13.3%	26.7%	26.7%	20.0%	100.0%
300万円以上600万円未満	11	14	21	14	6	66
	16.7%	21.2%	31.8%	21.2%	9.1%	100.0%
600万円以上	9	33	25	10	0	77
	11.7%	42.9%	32.5%	13.0%	0.0%	100.0%
合計	22	49	50	28	9	158
	13.9%	31.0%	31.6%	17.7%	5.7%	100.0%

3:分析の結果(2) 中学生のこれまでの生活体験

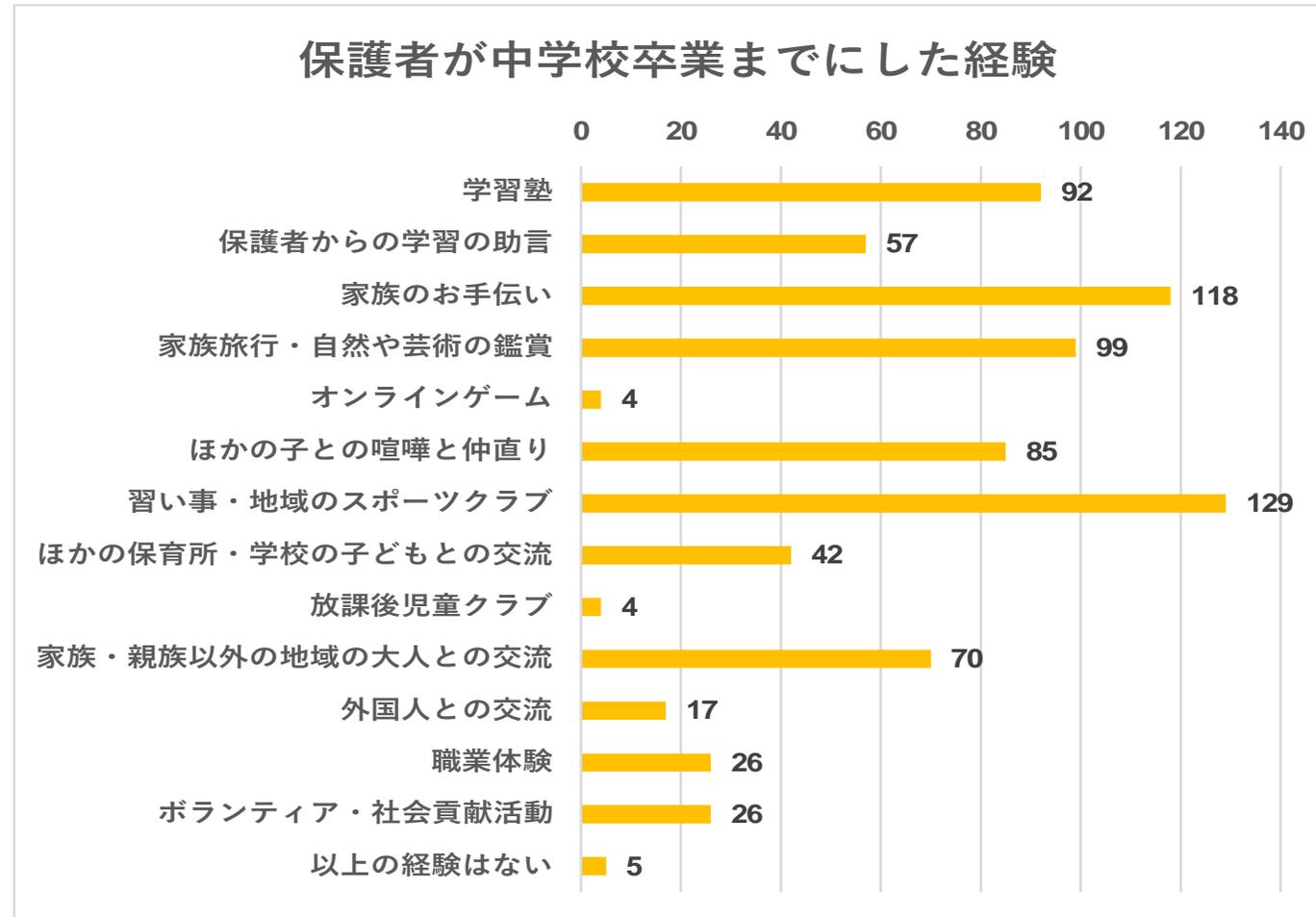
・家族の手伝いや家族での自然・芸術鑑賞、習い事やスポーツクラブ、保護者からの学習の助言が多めで、学習塾、職業体験、ボランティア・社会貢献活動、外国人との交流が少なめ。



3:分析の結果(3)

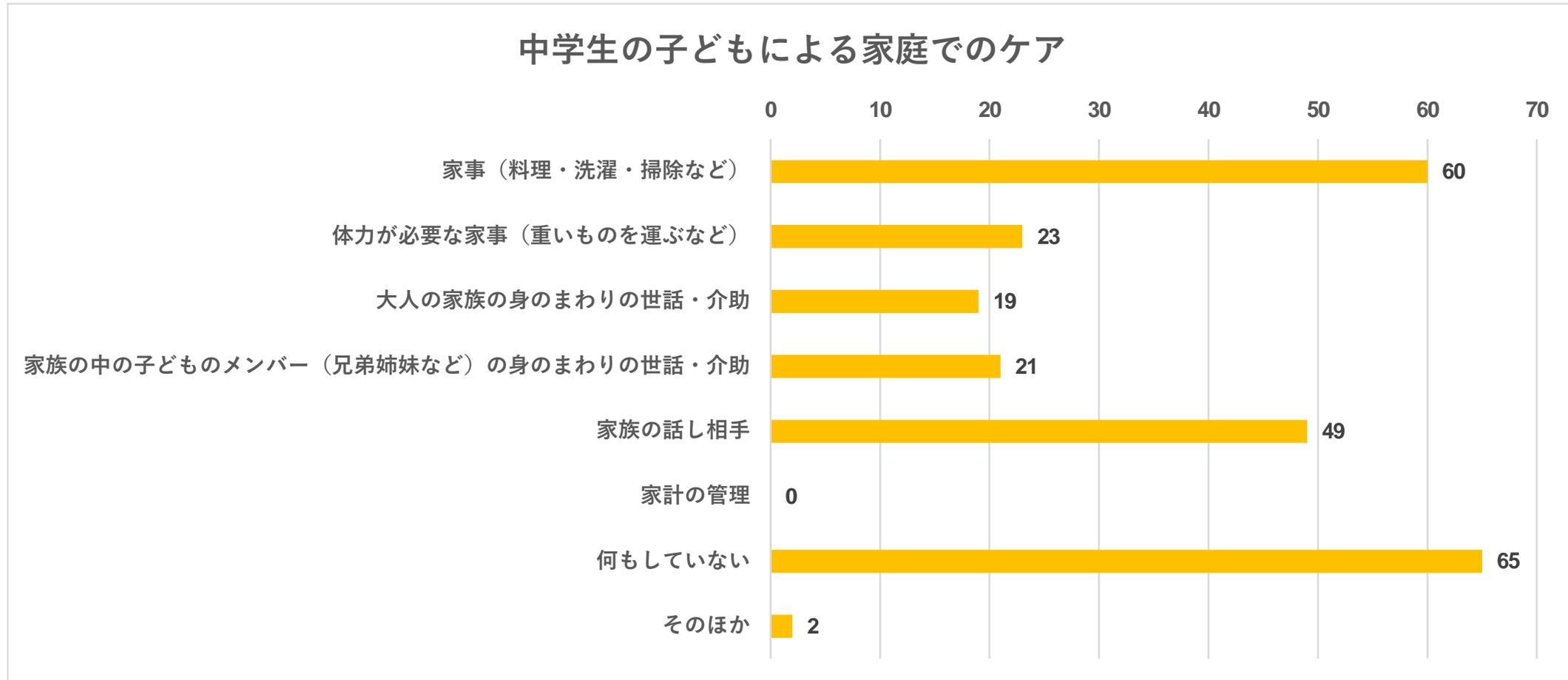
中学生の保護者の子どもの頃の生活体験

・家族の手伝いや家族での自然・芸術鑑賞、習い事やスポーツクラブが多めで、学習塾、職業体験、ボランティア・社会貢献活動、外国人との交流が少なめ。



3:分析の結果(4) 中学生による家庭でのケア

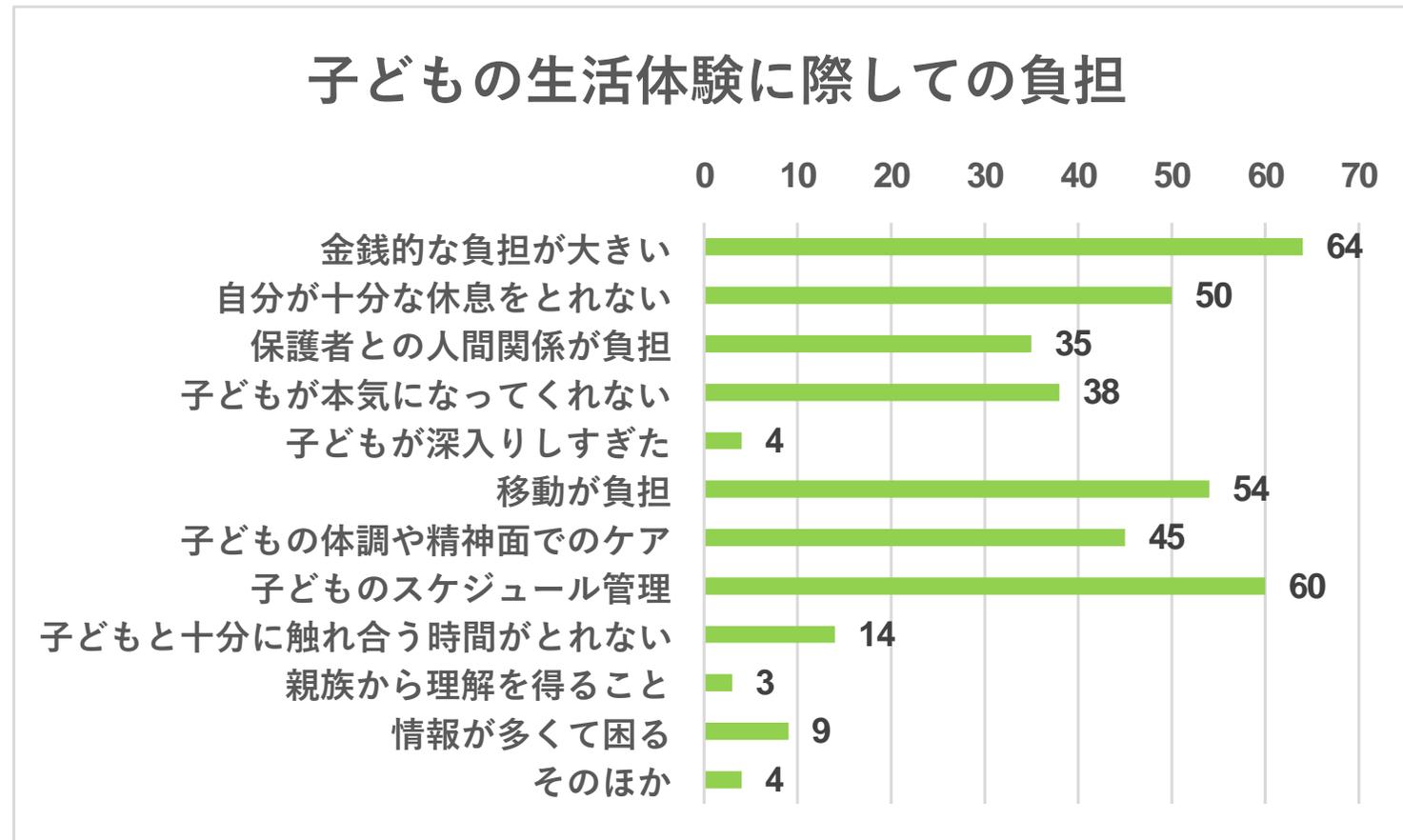
・いずれのケアも全体の半数以下。相対的には、家事（料理・洗濯・掃除など）が多め。



3:分析の結果(5)

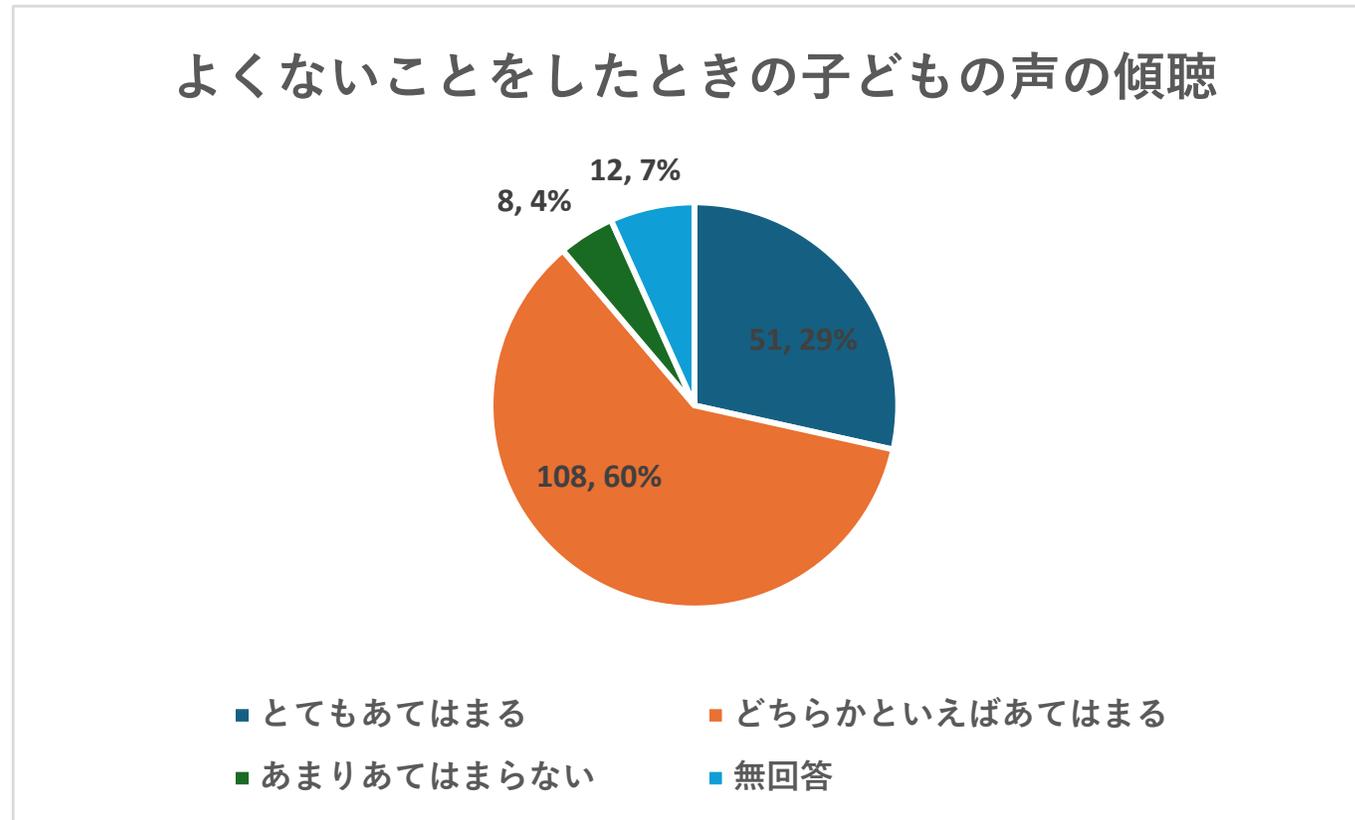
中学生のこれまでの生活体験に際しての保護者の負担

・いずれの負担も全体の半数以下。相対的には、金銭的な負担や子どものスケジュール管理が多め。



3:分析の結果(6) 家庭での中学生の子育て

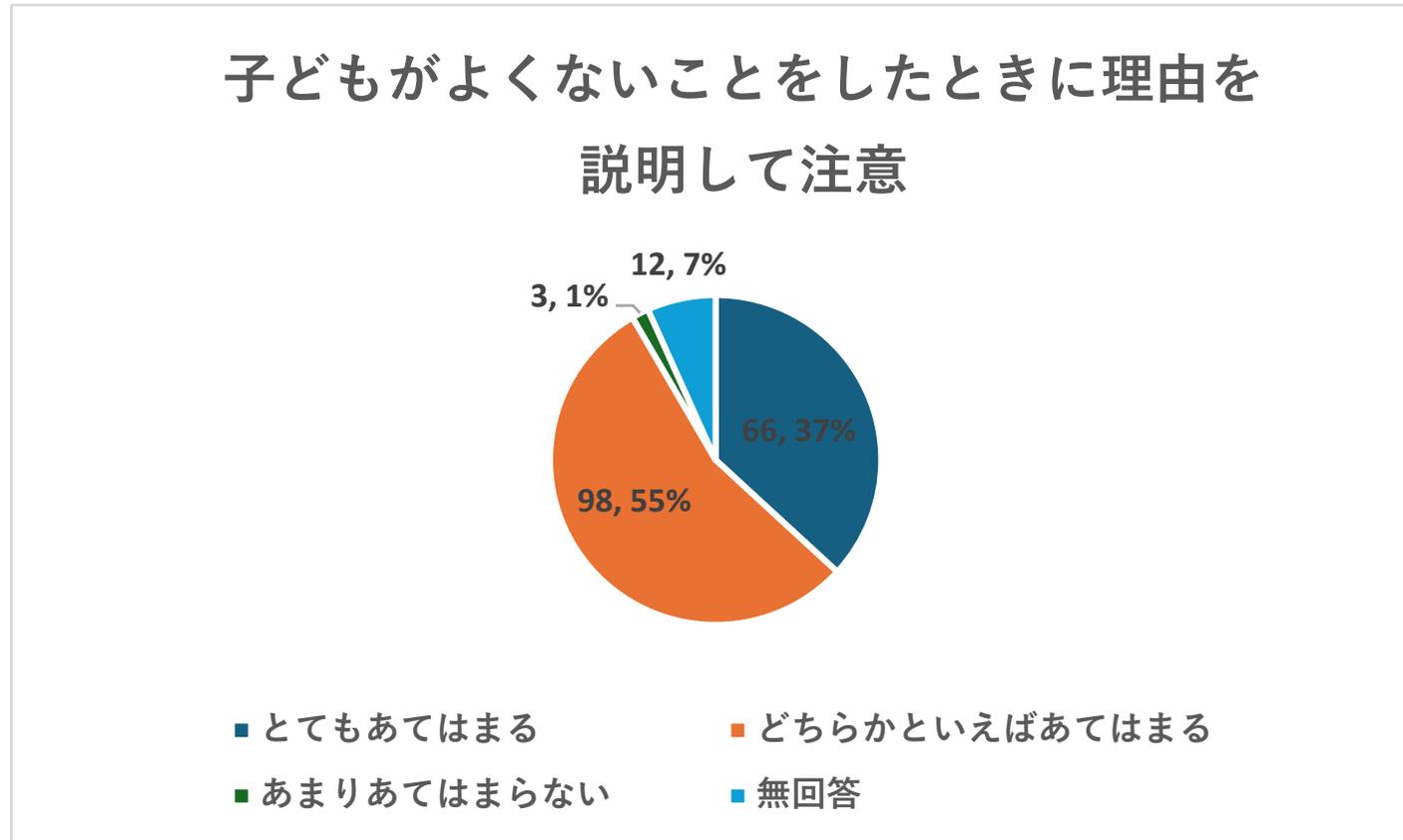
- ・大半の保護者が子どもがよくないことをしたときに、子どもの意見も傾聴。
ex「子どもがよくないことをしたときに、子どもの意見にも耳を傾ける」保護者が、
とてもあてはまる29%、どちらかといえばあてはまる60%。



3:分析の結果(6) 家庭での中学生の子育て

・大半の保護者が、子どもがよくないことをしたときには理由を説明したうえで注意。

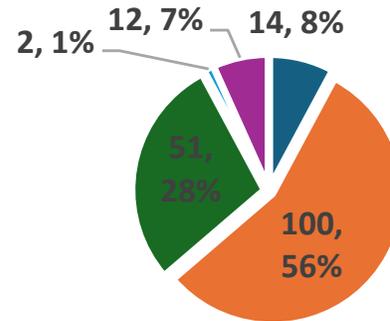
ex「子どもがよくないことをしたときに、理由を説明したうえで注意する」保護者が、
とてもあてはまる37%、どちらかといえばあてはまる55%。



3:分析の結果(6) 家庭での中学生の子育て

- ・自身が期待する行動を子どもにしてもらうに、子どもの意欲を引き出す保護者が多め。
⇔子どもの意見の傾聴・理由をつけた説明と比較すると少なめ。
ex「自身がしてほしい行動をしないときに、意欲を引き出す言葉をかける」保護者が、
とてもあてはまる8%、どちらかといえばあてはまる56%。

自身が期待する行動に向けた子どもの意欲の
引き出し



- とてもあてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

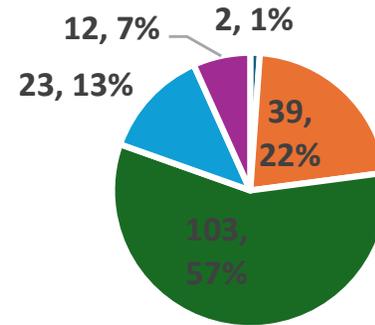
3:分析の結果(6) 家庭での中学生の子育て

・子どもがよくないことをしたときに、自分で考えさせるためにあえて教えない保護者はごく一部。

ex「子どもがよくないことをしたときに、自分で考えさせるためにあえて口出ししない」保護者が、

とてもあてはまる1%、どちらかといえばあてはまる22%。

子どもがよくないことをしたときに、自分で
考えさせるためにあえて口出ししない

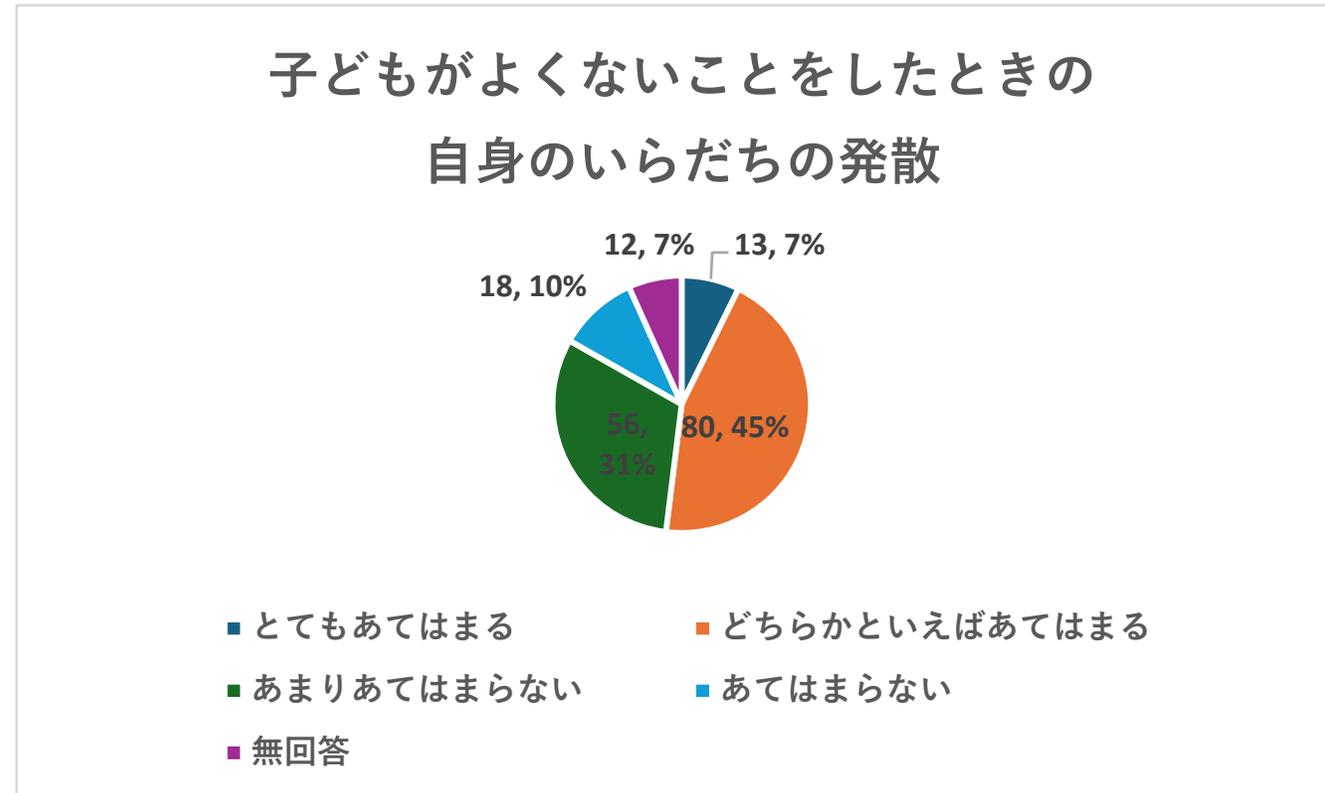


- とてもあてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

3:分析の結果(6) 家庭での中学生の子育て

・子どもがよくないことをしたときに、いらだちの感情を発散する保護者は半数強。

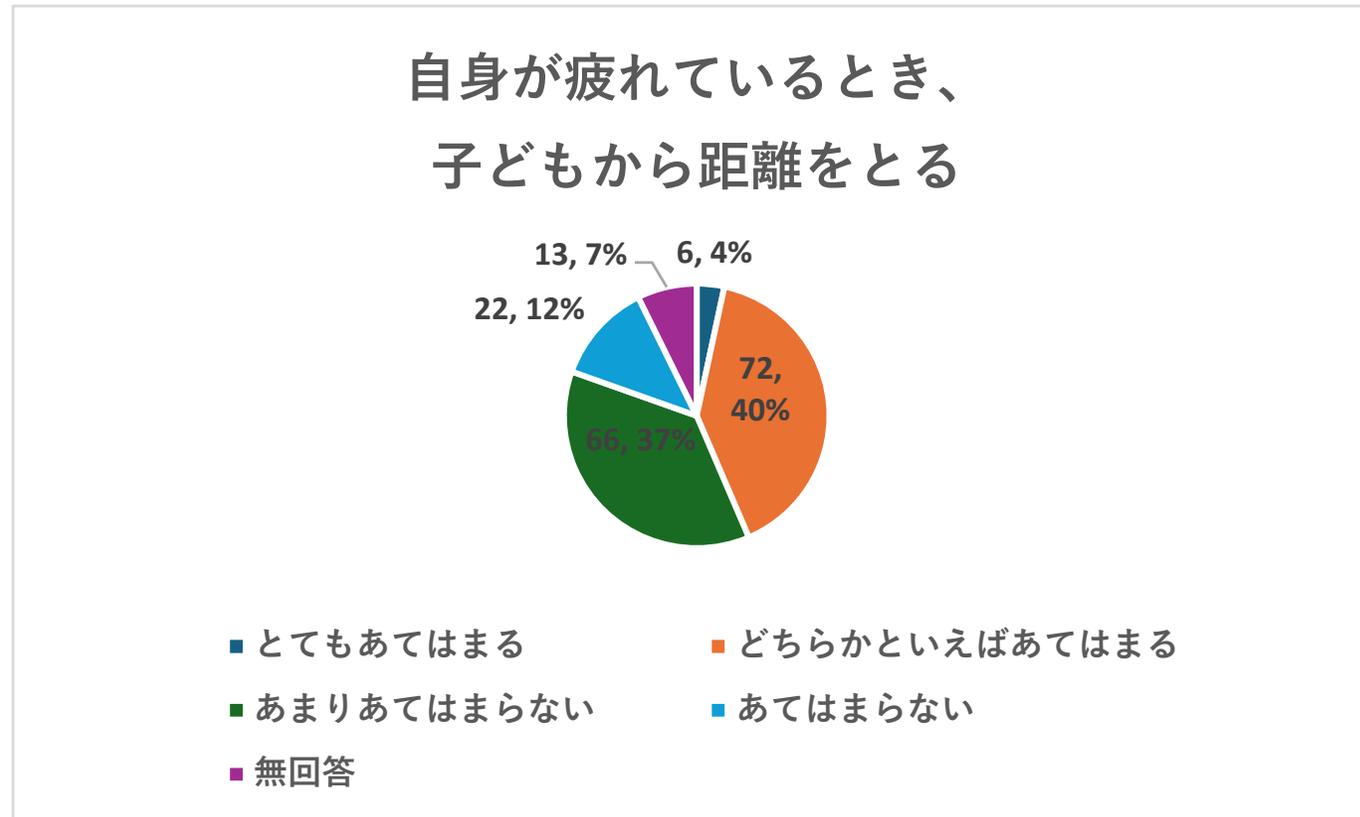
ex 「子どもがよくないことをしたときに、自身のいらだちから子どもに激しく怒りの感情を表現する」保護者が、とてもあてはまる7%、どちらかといえばあてはまる45%。



3:分析の結果(6) 家庭での中学生の子育て

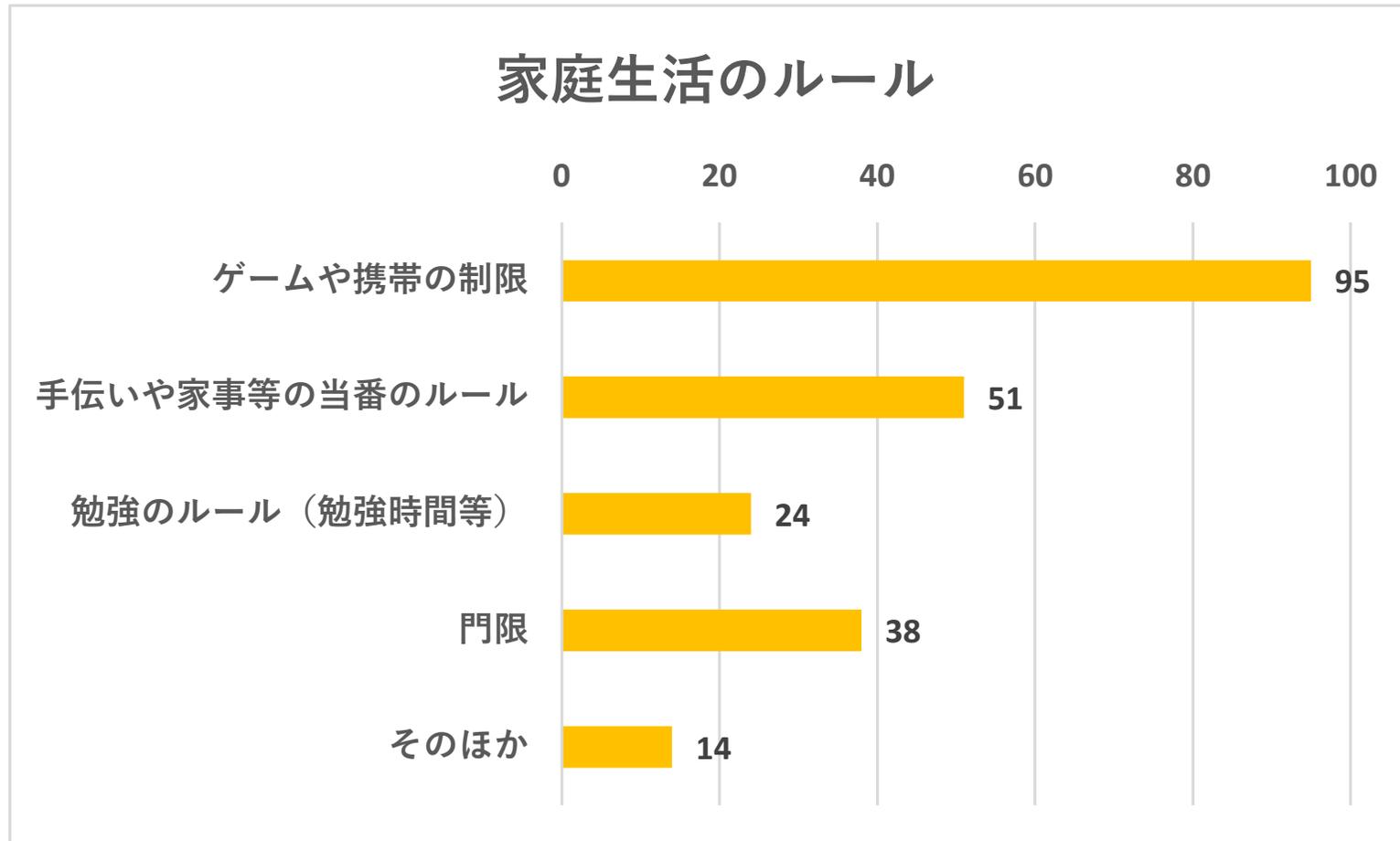
・疲れているときに、子どもから距離をとる保護者も半数弱。

ex 「自身がつかれているときに、子どもから距離をおいた対応をする」保護者が、
とてもあてはまる4%、どちらかといえばあてはまる40%。



3:分析の結果(7) 家庭生活のルール

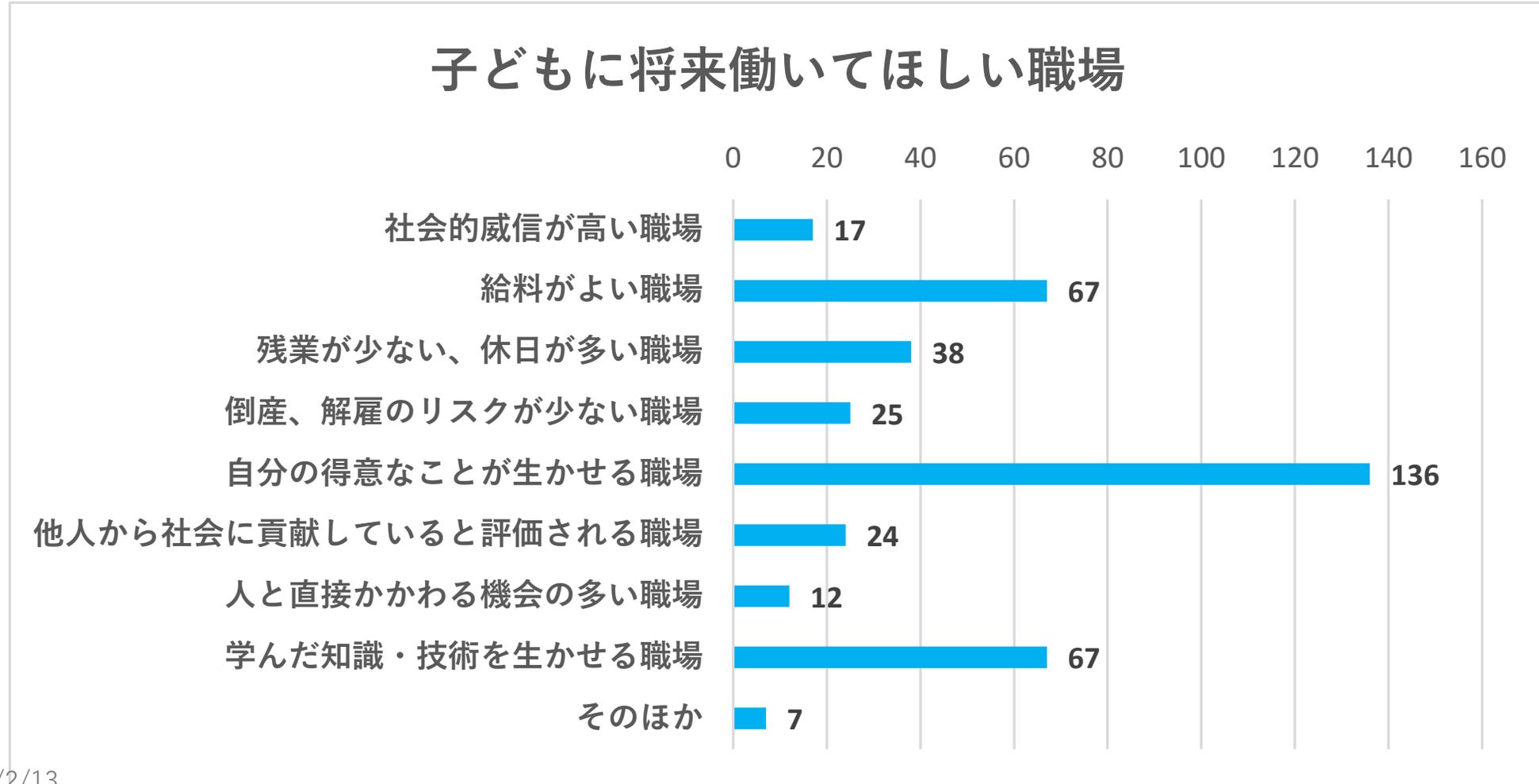
- ・ゲームや携帯等のオンライン・電子機器については制限のルールが多め。
- ⇔勉強時間のルール等は少なめ。



3:分析の結果(8)

中学生の子どもに期待する進路

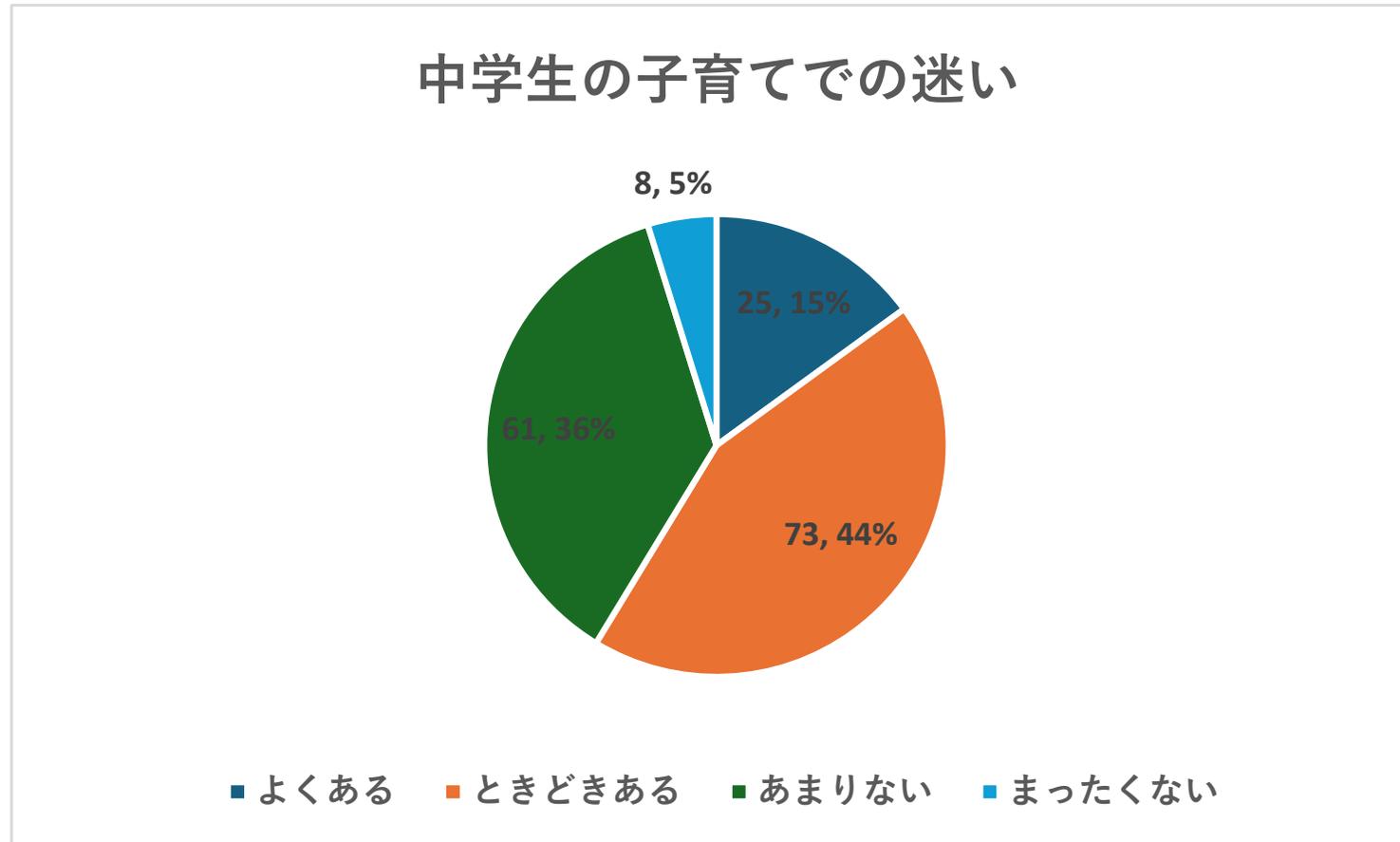
- ・子どもの得意なことを生かした職場で働いてほしいと思う保護者がかなり多い。
- ⇔倒産・解雇のリスクの少なさはそれほど重視せず。



3:分析の結果(9)

中学生の子どもの子育ての迷い

- ・半分以上の保護者が、ふだんから中学生の子どもの子育てに悩み。
- ex 「ふだん、中学生の子どものことでどうしたらよいかわからなくなる」保護者が、よくある15%、ときどきある44%。

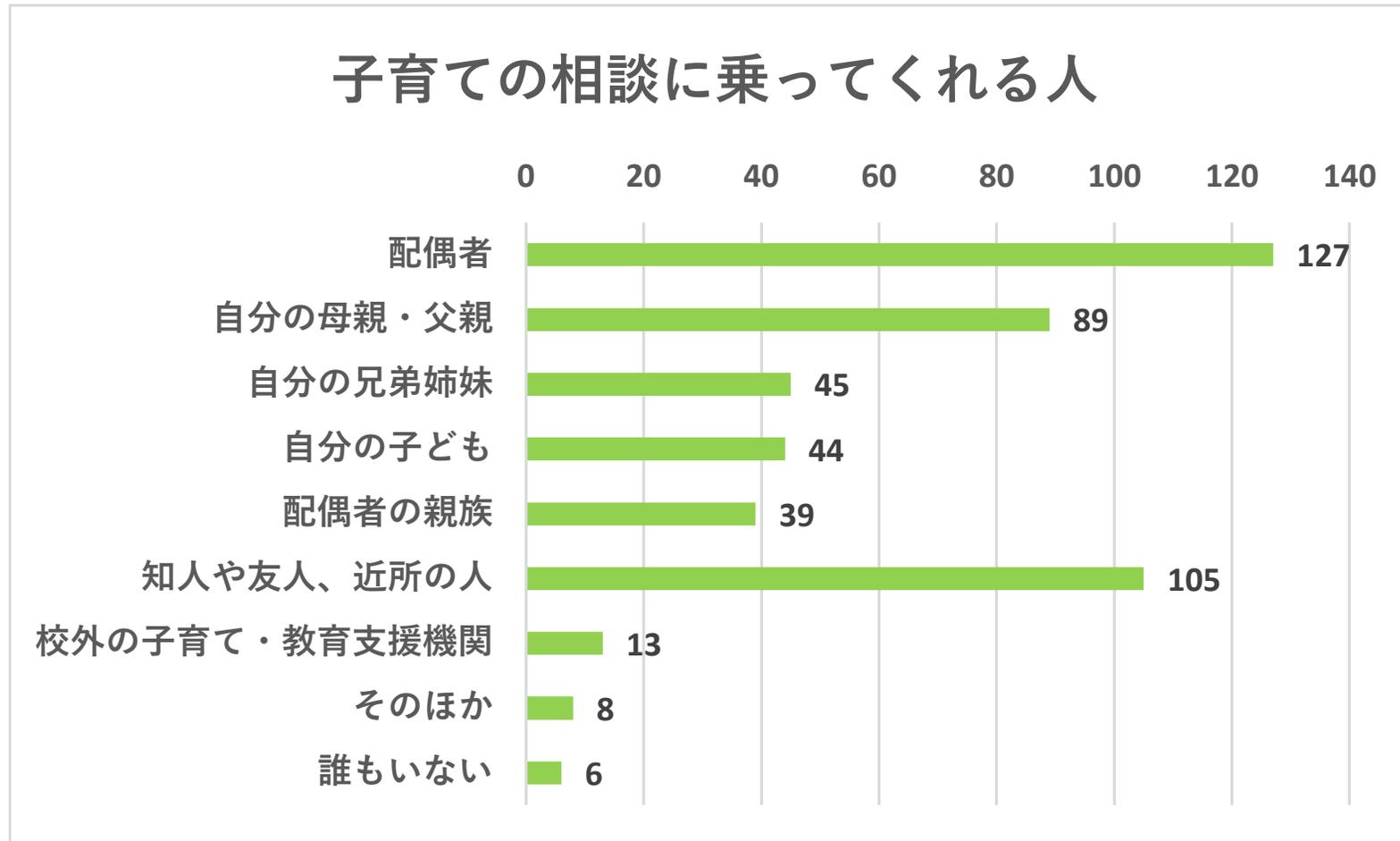


3:分析の結果(10)

中学生の子どもに期待する進路

・配偶者や近所の人・友人、自分の親からの支援は多め。

⇔自身から一定の距離を保てる郊外の機関からの支援の機能は少なめ。



まとめ

1:他者への配慮は得意

⇨自己完結的な力、他者を自己のために活用する力が苦手な傾向。

(他者を助ける力、礼儀正しさが得意な者が多め、他者の気持ちや出来事を想像する力が得意な者、他者の話を聞く力が得意な者がやや多め、

一方で自分の長所の理解、ペーパーテストの学力、地道な継続力、語学力、他者の力を活用する力、結果が予測できないことへの積極性が低め)。

2:家庭での自然文化体験、学外での習い事やスポーツ体験は多め。

⇨学外での学習や社会体験が少なめ。中学生による家族のケアはいずれも少なめ(相対的には家事や家族の話し相手が多い)。

⇒体験に伴う負担は半数に満たないが、金銭面、子どものスケジュール管理が負担。

3:家庭では子どもがよくないことをしたときには、理由を説明したり、子どもの言い分に耳を傾け、よいことをしたときは褒める教育。

=子どもの受容や理屈による説得という「子どもを導く子育て」。×理屈抜きで規範の押し付け。

⇨子どもがよくないことをしたとき子どもに考えさせるために子どもにあえて口出しをしない割合は低め。

=純粋な「子どもに任せる子育て」(額賀・藤田2022)は少ない。

⇨ゲームや携帯等のIT機器の利用はある程度制限。

まとめ

4: 将来の子どもに期待する進路は、子どもの得意なことを生かすこと（自己実現：多喜2015）が多め。

⇔ 雇用や労働の安定、「地位達成」（多喜2015）の期待は少なめ。

5: 距離の近い関係者（配偶者や友人・知人・近所の人）からの子育て支援が多め。

⇔ 距離のある関係性の者（NPOなど学校以外の子育て支援機関）からの子育ての支援が少ない。

考察

1:中学生の子どもに将来働いてほしい職場としては、自分の得意を生かせる職場が多め。
(労働環境重視や地位達成重視は少なめ)。

⇒

- ・(多くの中学生が得意とする)他者への配慮ができる職場環境の形成につながる一方で、
(他者に助けを求めることが苦手な傾向あるため)労働負担の重い職場環境を誘発する懸念も。
- ・得意なこと以外にも目を向け可能性を広げる教育(他者に助けを求める力をつける教育、自分で考える力をつけさせる教育)も大切。

2:自分の得意を生かせる職場を子どもに期待する一方で、子どもたちは他者に助けを求める力や地道な継続、創造力が
苦手という乖離。

⇔

- ・得意を生かすためにこそ、他者の力を活用することや地道な自己完結的な継続も必要な可能性。
- ・創造力が他者に支援を求める中で向上していく可能性。

⇒

- ・子育てのストレス。

⇒

- ・距離の近い者に子育てを相談する傾向。

⇔

- ・距離を置いた関係での子育て支援の少なさが、子育てのストレスを誘発している懸念。

今後の提言

1:安心して他人に助けを求めることができる雰囲気づくり

⇒江津市には、他人を助けることが得意な子が多く、そのように助けを求めれば支援してくれる子がいることを発信していく必要性。

2:経済的な厳しさが他者の意見を聴く余裕のなさにつながらないような場づくり。

⇒他者の意見を聴くゆとりが、他者を助けることが得意な子が多い(自分を助けてくれる子が多い)という江津市の現状を知ること、他人の力を積極的に借りる姿勢、そのことを通じた困難に耐える力の強さにつながりうる。

3:経済的な厳しさが基礎学力の厳しさにつながらない環境づくり、基礎学力全体の向上に向けた取り組みの必要性。

⇒「近代型能力」、「ポスト近代型能力」の双方が求められる現代において、基礎学力の向上も困難に耐える力に結び付きうる。

4:1~3のような場を、学校教育の中で形成、あるいは学校外の活動の場で発信し、後者の活動に対する予算をつける。

→そのことによって以上の力をつける機会の平等を達成していくことが重要。

引用文献

尾嶋史章『現代高校生の計量社会学 進路・生活・世代』ミネルヴァ書房、2001年。

多喜弘文「高校生の職業希望における多次元性」中澤渉・藤原翔編著『格差社会の中の高校生』勁草書房、2015年：81-95頁。

額賀美紗子・藤田結子『働く母親と階層化』東信堂、2022年。

本田由紀『家庭教育の隘路』勁草書房、2008年。

山田哲也「PISA型学力は、日本の学校教育にいかなるインパクトを与えたか」『教育社会学研究』2016年、5-28頁。